

37 パソコンで GP の データを表示 / 操 作したい

この章では GP-Viewer EX または Web Server を利用して、パソコン上で GP に表示されている画面を表示したり、パソコンから GP のデータを操作するための基本的な説明と設定手順について紹介します。まず「37.1 遠隔地に設置したパソコンで GP のデータを表示 / 操作したい (GP-Viewer EX)」（37-2 ページ）でこの機能の概要をお読みいただき、「37.3 設定メニュー」（37-10 ページ）または「37.9 設定メニュー」（37-37 ページ）から目的にあった説明ページへ読み進んでください。

37.1	遠隔地に設置したパソコンで GP のデータを表示 / 操作したい (GP-Viewer EX).....	37-2
37.2	GP-Viewer EX を利用した場合の動作環境、開発の流れ	37-4
37.3	設定メニュー	37-10
37.4	GP-Viewer EX で表示器のデータを表示、操作したい	37-11
37.5	GP-Viewer EX の表示 / 操作できる人を制限したい (セキュリティ).....	37-19
37.6	GP-Viewer EX を利用した場合の同期、非同期のしくみ	37-24
37.7	Internet Explorer で GP のアラームやデバイスアドレスを表示 / メンテナンスしたい (Web Server) ..	37-31
37.8	Web Server を利用した場合の動作環境、開発の流れ	37-32
37.9	設定メニュー	37-37
37.10	Web Server でアドレスを表示、アドレスの数値を変更したい	37-40
37.11	Web Server でアラーム情報を表示したい	37-53
37.12	Web Server でアラーム情報を RSS データとして表示したい.....	37-55
37.13	Web Server で CF カード (USB ストレージ) にファイルを転送したい	37-58
37.14	Web Server で表示 / 操作できる人を制限したい (セキュリティ).....	37-65
37.15	設定ガイド	37-72
37.16	制限事項.....	37-83

37.1 遠隔地に設置したパソコンで GP のデータを表示 / 操作したい (GP-Viewer EX)

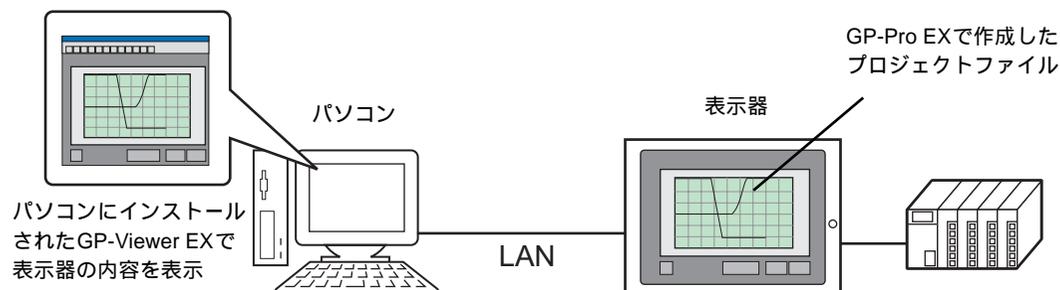
37.1.1 GP-Viewer EX とは

概要

GP-Viewer EX は遠隔地に設置されている表示器の画面をパソコン上で表示し、操作できるアプリケーションです。GP-Viewer EX を使用すると、現場の異常発生時に復旧作業や状況監視、また日々のメンテナンスができます。

この機能を使用するにはパソコンと表示器が同じ LAN/WAN 上に設置されており、また GP-Viewer EX をパソコンにインストールし、表示器にライセンスを設定する必要があります。

GP-Viewer EX は GP-Pro EX (Ver2.10 以上) の CD-ROM からインストールしてください。アップデートモジュールは弊社のホームページよりダウンロードできます。



モデル環境

本章で、操作や説明をする場合のモデルとなるシステム構成は以下のとおりです。これ以外のシステム構成では、表示や各部の名称が異なることがありますが、同等の機能を持つものと読み替えてください。

標準構成

教材・ソフト	モデルシステムの仕様	備考
OS	Windows® 2000	
接続機器	三菱電機(株)製 Q/QnA シリアルコミュニケーションシリーズ	
ブラウザ	Internet Explorer 6	

ライセンスについて

キーコード

GP-Viewer EX をご利用いただくには別途ライセンスをご購入いただき、表示器ごとにライセンスをご用意していただく必要があります。別売の GP-Viewer EX ライセンス（型式：EX-VIEWER-LICENSE）を準備してください。ライセンスをご購入いただくと、[キーコード]の記載された文書が発行されます。

重要

- キーコード入力手順は以下を参照してください。
 - ☞ 保守 / トラブル解決ガイド「GP-Viewer EX や RPA のライセンスを設定したい」
- キーコードを紛失されると、再発行できません。キーコードは大切に保管してください。

アプリケーション

GP-Viewer EX は下記の場合よりインストールします。

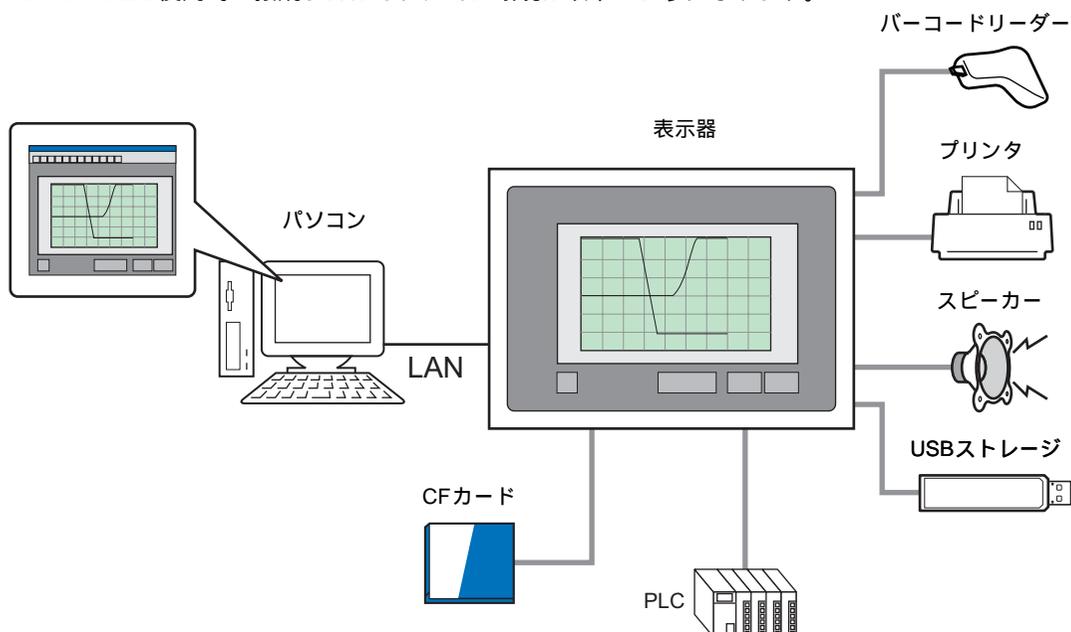
- GP-Pro EX（Ver2.10 以上）の CD-ROM をお持ちの場合
GP-Pro EX、Disk2 の「GPViewerEX」フォルダより、setup.exe をダブルクリックしてインストールできます。
- ホームページからアップデートモジュールをダウンロードする場合
弊社ホームページ「おたすけ Pro！」
<http://www.proface.co.jp/otasuke/> からアップデートモジュールをダウンロードすることもできます。

MEMO

- インストール手順については以下を参照してください。
 - ☞ 「37.4.2 設定手順 GP-Viewer EX のインストール（アンインストール）」（37-16 ページ）

全体構成

GP-Viewer EX 使用時の接続またはオプション環境は以下のようになります。



37.2 GP-Viewer EX を利用した場合の動作環境、開発の流れ

37.2.1 対象機種

GP-Viewer EX に対応している表示器の機種は以下のとおりです。

表示器

シリーズ	機種	型番	
GP-3000 シリーズ	GP3200A	AGP3200-A1-D24	
	GP3200T	AGP3200-T1-D24	
	GP-3300HL	AGP3300H-L1-D24	
	GP-3300HS	AGP3300H-S1-D24	
	GP-3310HT	AGP3310H-T1-D24	
	GP3300L		AGP3300-L1-D24
			AGP3300-L1-D24-D81K
			AGP3300-L1-D24-D81C
			AGP3300-L1-D24-FN1M
			AGP3300-L1-D24-CA1M
	GP3300S		AGP3300-S1-D24
			AGP3300-S1-D24-D81K
			AGP3300-S1-D24-D81C
			AGP3300-S1-D24-CA1M
	GP3300T		AGP3300-T1-D24
			AGP3300-T1-D24-D81K
			AGP3300-T1-D24-D81C
			AGP3300-T1-D24-FN1M
			AGP3300-T1-D24-CA1M
	GP3400S		AGP3400-S1-D24
			AGP3400-S1-D24-D81K
			AGP3400-S1-D24-D81C
			AGP3400-S1-D24-CA1M
	GP3400T		AGP3400-T1-D24
			AGP3400-T1-D24-D81K
			AGP3400-T1-D24-D81C
			AGP3400-T1-D24-FN1M
			AGP3400-T1-D24-CA1M
	GP3450T		AGP3450-T1-D24
	GP3500L		AGP3500-L1-D24
			AGP3500-L1-D24-D81C
	GP3500S		AGP3500-S1-D24
			AGP3500-S1-D24-D81K
			AGP3500-S1-D24-D81C
			AGP3500-S1-D24-CA1M
			AGP3500-S1-AF
			AGP3500-S1-AF-D81K
			AGP3500-S1-AF-D81C
			AGP3500-S1-AF-CA1M
	GP3500T		AGP3500-T1-D24
			AGP3500-T1-D24-D81K
			AGP3500-T1-D24-D81C
			AGP3500-T1-D24-FN1M
			AGP3500-T1-D24-CA1M
			AGP3500-T1-AF
			AGP3500-T1-AF-D81K
			AGP3500-T1-AF-D81C
AGP3500-T1-AF-FN1M			
AGP3500-T1-AF-CA1M			
GP3510T			
	AGP3510-T1-AF-CA1M		

次のページに続きます。

シリーズ	機種	型番
GP-3000 シリーズ	GP3550T	AGP3550-T1-AF
	GP3560T	AGP3560-T1-AF
	GP3600T	AGP3600-T1-D24
		AGP3600-T1-D24-D81K
		AGP3600-T1-D24-D81C
		AGP3600-T1-D24-FN1M
		AGP3600-T1-D24-CA1M
		AGP3600-T1-AF
		AGP3600-T1-AF-D81K
		AGP3600-T1-AF-D81C
		AGP3600-T1-AF-FN1M
		AGP3600-T1-AF-CA1M
	GP3650T	AGP3650-T1-AF
	GP3750T	AGP3750-T1-AF
AGP3750-T1-D24		
IPC シリーズ	WinGP	

対応 OS

Windows[®] 2000 (Service Pack 3 以上)

Windows[®] XP (Service Pack 2)

Windows Vista[®] Ultimate

Windows Vista[®] Home Premium/Basic

Windows Vista[®] Business

Windows Vista[®] Enterprise

Windows Server[®] 2003 (Service Pack 2)

画面解像度

1024×768 以上

表示器との相違点

機能	詳細
スイッチ	<ul style="list-style-type: none"> • AUX 出力は使用できません。 • セキュリティ、リセット、オフライン、その他未サポート機能に 関係する特殊スイッチは使用できません。 • スイッチを重ねているか、マルチファンクション化している場合、 表示器と異なる動作をする事があります。
サンプリング表示器	<ul style="list-style-type: none"> • データ編集はできません。 • 1 回目はサンプリングした情報を全て取得し、2 回目以降は GP- Viewer EX の [設定変更] - [情報の自動更新周期] で設定した周 期で情報を更新します。
アラーム機能	<ul style="list-style-type: none"> • サブ表示機能は、アラーム表示器が表示されていなくても、表示 器側の操作で予期せぬタイミングで実行される事があります。 • 外部操作によるアラーム情報のクリアはできません。 • 表示器側と表示内容が異なる場合があります (時刻情報やアク ティブなアラームの状態等)。 [画面の更新] を行うとアラーム情 報を取得し直しますので訂正されます。 • アラーム情報の保存はできません。 • アラームの [確認] [クリア] 操作はできません。 • [アラーム No 取得] は行えません。
ロジックプログラム機能 グローバル D スクリプト 拡張スクリプト	表示器で処理した結果は参照できますが、描画の結果は反映されま せん。
D スクリプト	同期モードの場合は動作します。ただし、描画の結果は反映されま せん。 非同期モードでも同じ画面を表示していると実行されます。
トリガアクション	<ul style="list-style-type: none"> • 非同期モードの場合、同じ画面を表示しているときは実行されま す。この時、表示器の画面が切り替わっても GP-Viewer 側の画面 は切り替わりません。そのため [アプリ起動]、 [WinGP の終了] を実行しても GP-Viewer では確認できないので、GP-Viewer から はこれらの操作を行わないでください。 • 同期モードの場合は動作します。ただし、描画の結果は反映され ません。
画面キャプチャ	<ul style="list-style-type: none"> • 画面キャプチャ設定による表示器画面のキャプチャはできません。 [ツール] メニューの [画面のキャプチャー] で行ってください。
エラー	<ul style="list-style-type: none"> • 表示器側と GP-Viewer EX 側の両方のエラーを表示します。 • 1 回目は全てのエラーを取得し、2 回目以降は GP-Viewer EX の [設 定変更] - [情報の自動更新周期] で設定した周期で情報を更新し ます。 • 復旧したエラーの表示は消えません。画面切り替え時消去のみ有 効です。
データ表示器	<ul style="list-style-type: none"> • 数値表示器 / 文字列表示器において、アドレスタイプに “ デバイス タイプ & アドレス ” を指定して、モニターワードアドレスに接続機 器 (PLC) を使用するとエラーが発生します。
ヒストリカルトレンドグラ フ	<ul style="list-style-type: none"> • ビューアのカーソル情報格納アドレス、ステータスアドレス、検 索ステータスは参照できません。
データ一括表示グラフ	<ul style="list-style-type: none"> • 非同期モードの場合、グラフのクリア / 再表示を行うには [更新 (U)] メニューから [一括表示グラフ] を選択してください。同期 モード中に更新が行われない場合も同様です。

次のページに続きます。

機能	詳細
XY ヒストリカルトレンドグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 画面切り替え直後は、前回のサンプリングデータも含めて、バッファにあるすべてのデータがグラフに表示されます。
XY データ一括表示グラフ XY ヒストリカルトレンドグラフの理想曲線	<ul style="list-style-type: none"> 表示器側で D スクリプトや接続する PLC のラダーでコントロールワードを高速で変更する場合は、サーバ側の操作を検知できない事があります。 非同期モードでグラフを更新する場合は、グラフの表示完了ビットが ON しないため、表示器側でコントロールワードを 0 に戻す事ができません。あらかじめコントロールワードを 0 に戻すスイッチを配置してください。
回覧メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 表示 / 非表示の切り替えを連続して行くと、表示内容が表示器と同期しない場合があります。 メッセージを更新するには、一度消去してから再表示させてください。 表示完了ビットは操作できません。
レシピ機能	<ul style="list-style-type: none"> レシピ機能は動作しません。 特殊データ表示器（データ転送、ファイリング、CSV 表示）は表示されません。
ファイルマネージャ	<ul style="list-style-type: none"> ステータスアドレス、動画選択は設定できません。 表示されるのは GP-Viewer EX のパソコン内のファイルです。
LS エリア メモリリンク	<ul style="list-style-type: none"> 特殊リレーエリア (LS2071 ~ LS2074, LS2078 ~ LS2095) に対するビューアからの書き込みは、できません。 特殊リレーエリア、拡張システムエリアへの書き込みは未サポートです。
セキュリティレベルのクリア	<ul style="list-style-type: none"> レベルの変更やクリアは、メニュー->機能->“セキュリティレベルの切り替え”もしくは“ユーザIDの切り替え”から行ってください。なお、ユーザID/パスワードを空白にして、OK ボタンを押すと、セキュリティレベルを 0 にする事ができます。（ビューアデータ読み込みにセキュリティ設定がされているとできません）
スタンバイモード	<ul style="list-style-type: none"> スタンバイモードに移行しません。 なお、表示器はスタンバイモードに移行しますが、ビューア接続中は、移行時の画面の切り替えが行われません。
日本語 FEP（学習機能）	<ul style="list-style-type: none"> 表示器に登録されている辞書情報は利用できません。
カーソル情報格納アドレス ステータスアドレス 検索ステータスアドレス	<ul style="list-style-type: none"> 各部品 / 機能の左記項目の情報は取得できません。
操作ログ	<ul style="list-style-type: none"> ログは保存されません。
Web Server、FTP 機能	<ul style="list-style-type: none"> Web Server、FTP 機能は動作しません。
モニター機能	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモニター、ラダーモニター、デバイスモニター、VM/DVI、RPA は動作しません。
RPA 機能	<ul style="list-style-type: none"> RPA 機能は使用できません。
印刷機能	<ul style="list-style-type: none"> 印刷機能は動作しません。
プロジェクトファイルの転送	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトファイルの転送はできません。
モニタ機能	<ul style="list-style-type: none"> デバイスモニタ、アドレスモニタ、ラダーモニタは使用できません。

次のページに続きます。

機能	詳細
バックライト2色切り替え	• バックライト2色切り替えはできません。
オフラインモード	• オフラインモードへの移行はできません。
バーコードリーダ	• バーコードリーダは接続できません。
モデム	• モデムには接続できません。
ハンディ GP のファンクションキー	• ハンディ GP のファンクションキーは操作できません。
動画機能	• 動画の録画、再生はできません。 • 部品は表示されません。
その他	• Pro-Server EX の局検索に回答しません。

37.2.2 開発の流れ

GP-Pro EX の起動、画面作成、パソコンで表示器の画面データを表示、操作する GP-Viewer EX のインストール、GP-Viewer EX の操作までの流れを以下に示します。

1	GP-Pro EX を起動し、プロジェクトファイルを新規作成します。	☞「37.10.2 設定手順 GP-Pro EX の起動～プロジェクト作成」(37-42 ページ)
2	GP-Pro EX にて作画します。GP-Viewer EX 機能やセキュリティ機能も設定します。	☞「37.10.2 設定手順 作画、保存」(37-42 ページ)
3	表示器にプロジェクトファイルを転送します。	☞「37.10.2 設定手順 転送」(37-45 ページ)
4	表示器にライセンスを設定します。	☞「37.4.2 設定手順 表示器のライセンス設定」(37-15 ページ)
5	表示器とパソコンを接続します。	☞「37.10.2 設定手順 表示器とパソコンの接続」(37-46 ページ)
6	GP-Viewer EX をインストールします。	☞「37.4.2 設定手順 GP-Viewer EX のインストール (アンインストール)」(37-16 ページ)
7	GP-Viewer EX を起動します。	
8	GP-Viewer EX を接続しログオン します。セキュリティを設定している場合のみ	☞ GP-Viewer EX オペレーションマニュアル「パスワードダイアログボックス ログオン (セキュリティ設定の場合)」
9	GP-Viewer EX で GP のデータを表示、操作します。	☞ GP-Viewer EX オペレーションマニュアル「GP-Viewer EX で表示器のデータを表示、操作したい」
10	GP-Viewer EX の設定と GP の画面データを保存して終了します。	☞ GP-Viewer EX オペレーションマニュアル「操作手順」

37.3 設定メニュー

この章でご紹介する機能を使用できる本体機種には制限があります。設定を行う前に、ご使用の機種が機能に対応しているかどうかご確認ください。

☞ 「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-6 ページ)

GP-Viewer EXで表示器のデータを表示、操作したい	
<p>表示器の画面を表示</p> <p>LAN</p> <p>表示器の画面を操作</p> <p>LAN</p>	<p>☞ 「37.4.2 設定手順」(37-12 ページ)</p> <p>☞ 「37.4.1 詳細」(37-11 ページ)</p>
GP-Viewer EXの表示/操作できる人を制限したい(セキュリティ)	
<p>パスワード入力</p>	<p>☞ 「37.5.2 設定手順」(37-20 ページ)</p> <p>☞ 「37.5.1 詳細」(37-19 ページ)</p>

37.4 GP-Viewer EX で表示器のデータを表示、操作したい

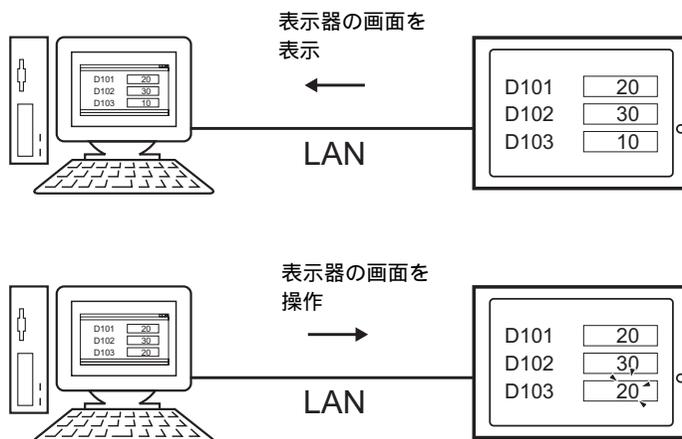
37.4.1 詳細

サーバとなる表示器とパソコンを LAN で接続し、表示器に表示されているデータを「GP-Viewer EX」を使ってパソコン上に表示させることができます。遠隔地にある現場の表示器を操作したり、表示内容を確認することができます。ここでは例として、GP に表示されたアラームを確認し、設定します。

重要

- 本機能は事前に GP-Viewer EX 専用キーコード（型式：EX-VIEWER-LICENSE）の購入が必要です。GP-Viewer EX 機能を使用する表示器 1 台につきキーコードを 1 つ用意してください。1 つのキーコードで、表示器の画面を GP-Viewer EX で最大 3 枚まで表示できます。
- キーコードを紛失されると再発行できません。キーコードは大切に保管してください。
- キーコード入力方法は次を参照してください。

👉 保守 / トラブル解決ガイド「GP-Viewer EX や RPA のライセンスを設定したい」

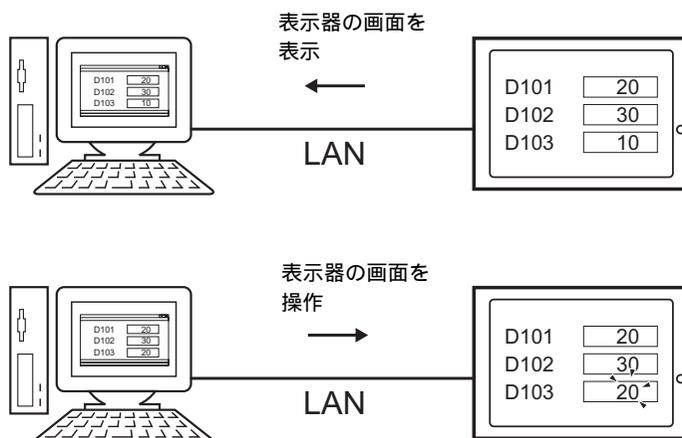


37.4.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「37.15.2 システム設定ウィンドウ[本体設定] - [遠隔監視設定]の設定ガイド」(37-79 ページ)



必要な機器

- 表示器 (対応機種は「37.2.1 対象機種 表示器」(37-4 ページ)を参照してください。)
- GP-Pro EX (Ver2.10 以上)
- GP-Viewer EX キーコード (弊社製別売品です。型式: EX-VIEWER-LICENSE)
- パソコン (対応機種は「37.2.1 対象機種 対応 OS」(37-5 ページ)を参照してください。)
- LAN ケーブルおよび HUB (市販品)

概要手順

- GP-Pro EX を起動し、プロジェクトファイルを新規作成します。
- GP-Pro EX にて作画します。GP-Viewer EX 機能やセキュリティ機能を設定します。
- プロジェクトファイルを転送します。
- 表示器にライセンスを設定します。
- 表示器とパソコンを接続します。
- パソコンに GP-Viewer EX をインストールします。
- GP-Viewer EX を起動します。

GP-Pro EX の起動～プロジェクトファイル作成

GP-Pro EX を起動し、プロジェクトファイルを新規作成します。起動方法は「5.2.2 設定手順」(5-9 ページ)の手順と同様です。

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「5.17.2 [新規作成]の設定ガイド」(5-99 ページ)

作画、保存

作画

作画します。作画方法は「5.2.2 設定手順 作成・保存する」(5-13 ページ)を参照してください。またアラームなど使用したい機能に応じて、関連する章を参照してください。

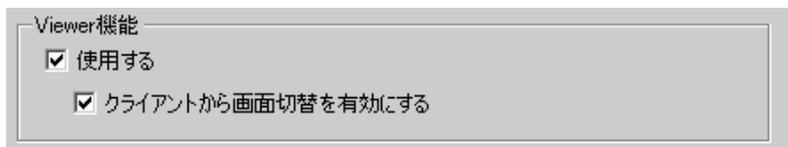
重要

- GP-Viewer EX でご利用いただける機能には相違があります。GP-Viewer EX で使用できる機能については下記を参照してください。

☞ 「表示器との相違点」(37-6 ページ)

GP-Viewer EX 機能

システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] を開き、[使用する]、[クライアントから画面切り替えを有効にする] にチェックが入っていることを確認します。[使用する] にチェックを入れると、GP-Viewer EX 機能が使用できるようになり、[クライアントから画面切替を有効にする] にチェックを入れるとパソコンから表示器の画面切り替え操作できます。



MEMO

- [クライアントから画面切り替えを有効にする] にチェックが入っていても、セキュリティ機能で [GP-Viewer データ書き込み] が無効に設定されている場合、GP-Viewer からの画面切り替えはできません。

操作ロック機能

GP-Viewer が複数台接続されている場合、1 台で操作を開始すると他の GP-Viewer もしくは GP でのタッチ操作ができないよう設定することができます。

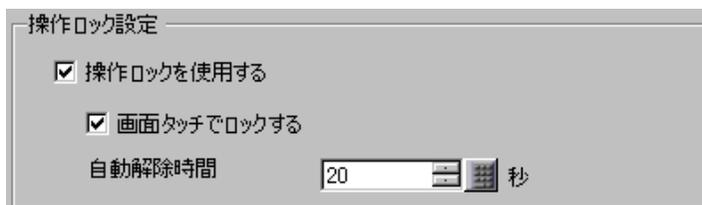
システム設定ウィンドウの [本体設定] - [拡張機能設定] を開き、[操作ロック設定] で [操作ロックを使用する] にチェックを入れます。

[自動解除時間] にはロック元の GP-Viewer もしくは GP で、新たなタッチ操作が行われない場合にロックを自動解除させるまでの秒数を設定できます。

MEMO

- 操作ロック機能についての詳細は以下を参照してください。

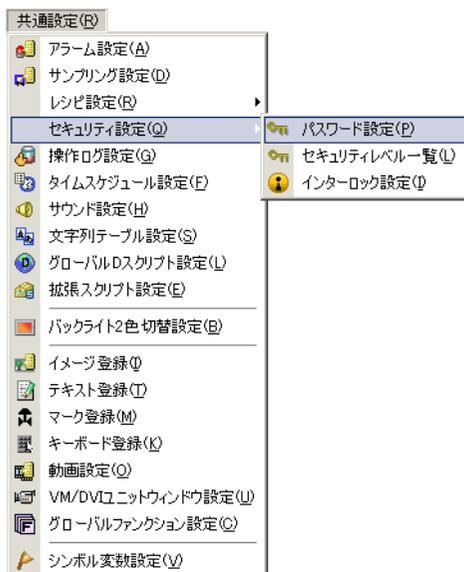
☞ 「7.6 複数の GP を接続したとき、1 台の操作中はほかの GP のタッチ操作を禁止したい」(7-32 ページ)



セキュリティ機能

表示画面や、機能ごとにセキュリティレベルをもうけて GP-Viewer EX で操作できる人を制限できます。ここでは例として、パソコンから表示器の画面データを操作できるようにセキュリティを設定します。レベル 1 の担当者は表示器の画面データを表示のみ、レベル 15 の担当者は表示器の画面データを表示、操作できるように設定します。

- 1 GP-Pro EX の [共通設定 (R)] から [セキュリティ (Q)] を選択し、[パスワード設定 (P)] を選択するか、 をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[レベル 1] にパスワード「1111」を、[レベル 15] にパスワード「5555」を入力します。

MEMO

- 各レベルにユーザ ID を設定する場合は以下を参照してください。

 「37.5.2 設定手順 ユーザ ID モード」(37-22 ページ)

セキュリティ機能を使用する [エキスポート](#)

ユーザIDを追加する [新規作成](#) [削除](#)

レベル	パスワード
1	1111
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	5555

3 続いて、[機能別にセキュリティを設定する]にチェックが入っていることを確認し、手順2で設定したレベルにそれぞれ、どの機能の操作を許可するか設定します。

(例：[GP-Viewer データ値読み込み]レベル1、[GP-Viewer データ値書き込み]レベル15)

機能別にセキュリティを設定する

項目	レベル	無効
オフライン画面移行	0	
ロジックモニター	0	
オンラインロジックエディット	0	
GP-Viewer データ値読み込み	0	
GP-Viewer データ値書き込み	1	<input type="checkbox"/>
Web Serverコンテンツ閲覧	15	

[拡張設定](#)

MEMO

- 無効にチェックをつけると、セキュリティレベルに関係なくその機能は実行できなくなります。
- 無効にチェックをつけた後、有効に戻したい場合は、作画ソフトにて変更後、プロジェクトファイルを転送し直してください。オフラインメニューから有効に戻すことはできません。

転送

表示器にプロジェクトファイルを転送します。

プロジェクトファイル転送手順については以下を参照してください。

☞ 「33.1 設定メニュー」(33-2 ページ)

表示器のライセンス設定

表示器のオフラインモードに入り [本体設定] - [拡張機能設定] - [GP-Viewer EX 機能キーコード] でキーコードを設定します。

ライセンスの詳細設定手順は以下を参照してください。

☞ 保守 / トラブル解決ガイド「GP-Viewer EX や RPA のライセンスを設定したい」

重要

- 本機能は事前に GP-Viewer EX 専用キーコード (型式：EX-VIEWER-LICENSE) の購入が必要です。GP-Viewer EX 機能を使用する表示器 1 台につきキーコードを 1 つ用意してください。1 つのキーコードで、表示器の画面を GP-Viewer EX で最大 3 枚まで表示できます。
- キーコードを紛失されると再発行できません。キーコードは大切に保管してください。
- 表示器にキーコードを設定せずに、GP-Viewer EX を起動した場合は体験版が起動します。

表示器とパソコンの接続

表示器とパソコンを HUB と LAN ケーブルで接続します。

重要

- イーサネットで通信するためには GP にイーサネットの設定（IP アドレス、ポート番号など）を行う必要があります。

MEMO

- 表示器の IP アドレスはオフラインモードの [本体設定] - [イーサネット設定] で設定します。詳細設定手順は以下を参照してください。
 保守 / トラブル解決ガイド「表示器に IP アドレスを設定したい」
- イーサネット通信には必ず HUB を使用してください。クロスケーブルによる 1:1 接続ではパソコンやネットワークカードによって使用できない場合があります。

GP-Viewer EX のインストール（アンインストール）

インストール

GP-Viewer EX をパソコンにインストールします。GP-Viewer EX は GP-Pro EX Ver.2.10 以上の CD-ROM からインストールしてください。アップデートモジュールは弊社のホームページよりダウンロードできます。

重要

- 対応しているパソコン以外にインストールした場合は動作しません。
- Administrator 権限のあるユーザーアカウントでインストールしてください。
- インストール前はウイルスチェックソフトを含むすべてのプログラムを終了させてください。

MEMO

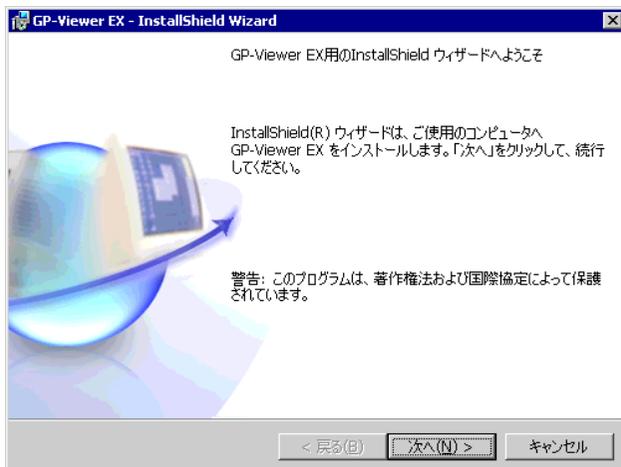
- GP-Viewer EX にはオンラインアップデート機能はありません。

- GP-Pro EX Ver.2.10 以上の CD-ROM からインストールする場合

- GP-Pro EX のインストール CD-ROM(Disk2) をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
- GP-Pro EX のセットアップ画面が表示されるので、[GP-viewer EX] をクリックします。



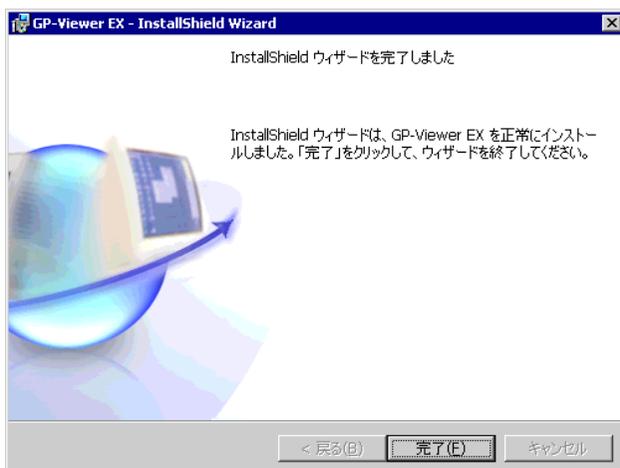
3 以下のインストールウィザードが起動しますので、ウィザードに従ってインストールを進めます。



4 インストール先フォルダを指定する場合は、インストール中に表示される次の画面で [変更] ボタンをクリックし、インストール先を半角英数 80 文字以内で設定してください。



5 以下のメッセージが表示され、インストールが完了します。



- ホームページからアップデートモジュールをダウンロードしてインストールする場合
- 1 ダウンロードしたファイルをダブルクリックすると、ファイルを実行するかどうか確認メッセージが表示されるので [実行] を選択します。
 - 2 ファイルを実行後、上記手順 4 と同じインストールウィザードが表示されるのでインストールウィザードに従ってインストールを進めます。

アンインストール

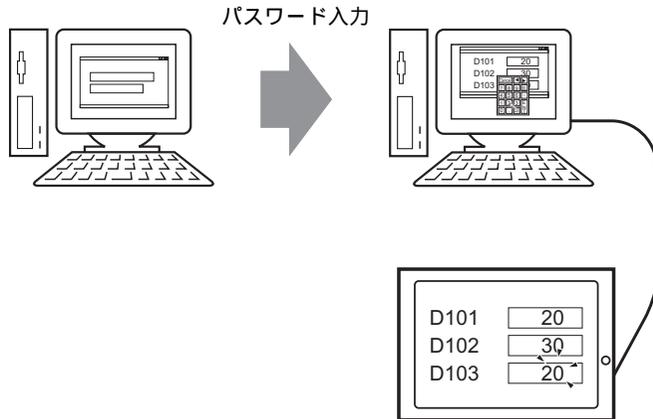
GP-Viewer EX をパソコンからアンインストールします。

コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] からアンインストール [スタート] ボタンから [設定 (S)] を選択し、[コントロールパネル (C)] をクリックすると [コントロールパネル] が開くので [プログラムの追加と削除] を選択します。インストールされているアプリケーションの一覧から [GP-Viewer EX] を選択して、[削除] をクリックするとアンインストールされます。

37.5 GP-Viewer EX の表示 / 操作できる人を制限したい (セキュリティ)

37.5.1 詳細

GP-Viewer EX で表示器に表示されているデータを表示、操作できる人を制限したい場合にセキュリティ設定を行います。メンテナンス担当者用セキュリティレベル 15 とパスワード (5555) を設定します。また状況監視担当者用のセキュリティレベル 1 とパスワード (1111) を設定します。セキュリティ設定方法はレベルモード設定とユーザ ID モード設定があります。



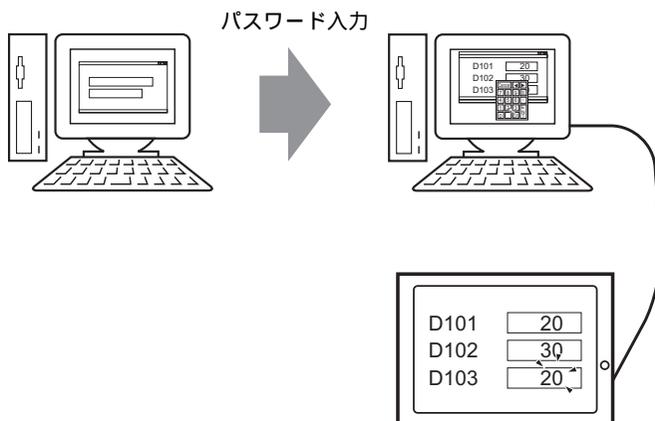
37.5.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「22.10.1 共通設定 (セキュリティ設定) の設定ガイド」(22-37 ページ)

メンテナンス担当者用セキュリティレベル 15 とパスワード (5555) を設定します。また状況監視担当者用のセキュリティレベル 1 とパスワード (1111) を設定します。



MEMO

- セキュリティレベル 0 は、セキュリティがかかっていない状態です。

レベルモード

1 ~ 15 のセキュリティレベルにパスワードを登録して表示器の画面にセキュリティレベルを設定します。

- [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する]にチェックを入れ、[レベル 01]にパスワード「1111」を入力し、[レベル 15]に「5555」を入力します。

レベル	パスワード
1	1111
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	5555

MEMO

- パスワードは半角英数 8 文字以内で設定してください。

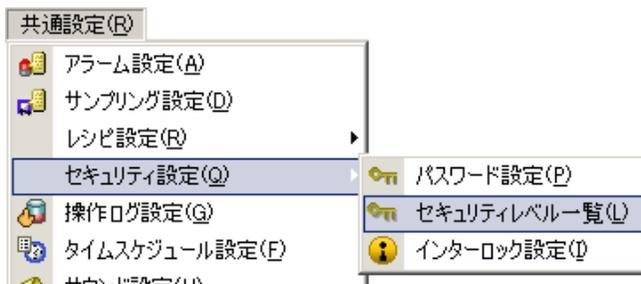
- 3 続いて [機能別にセキュリティ設定する] にチェックを入れ [項目] の操作に対し手順 2 で設定したレベルを設定します。(例：[GP-Viewer データ値読み込み] レベル「1」、[GP-Viewer データ値書き込み] レベル「15」)

項目	レベル	無効
オフライン画面移行	0	
ロジックモニタ	0	
オンラインロジックエディット	0	
GP-Viewer データ値読み込み	0	
GP-Viewer データ値書き込み	1	<input type="checkbox"/>
Web Serverコンテンツ閲覧	15	

MEMO

- 無効にチェックをつけると、セキュリティレベルに関係なくその機能は実行できなくなります。
- 無効にチェックをつけた後、有効に戻したい場合は、作画ソフトにて変更後、プロジェクトファイルを転送し直してください。オフラインメニューから有効に戻すことはできません。

- 4 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [セキュリティレベル一覧 (L)] を選択します。



- 5 モニタ画面 (画面番号 : B1) の [セキュリティレベル] を「1」、メンテナンス画面 (画面番号 : B2) の [セキュリティレベル] を「15」に設定して完了です。

画面番号 ▲	セキュリティレベル	タイトル
B1	1	モニタ画面
B2	15	メンテナンス画面

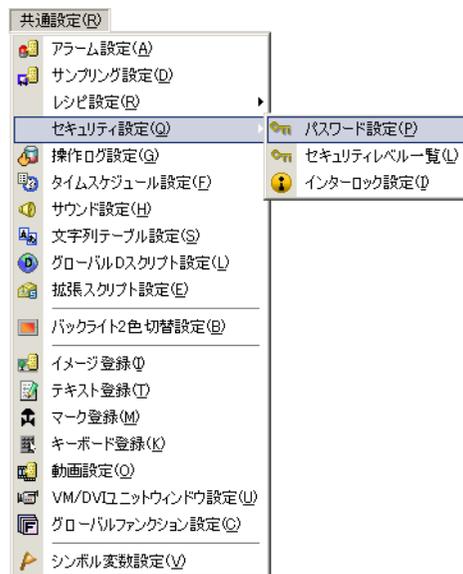
MEMO

- セキュリティレベルを設定した後はプロジェクトファイルを表示器に転送する必要があります。
- GP-Viewer EX でのセキュリティ操作については以下を参照してください。
 GP-Viewer EX オペレーションマニュアル「GP-Viewer EX で表示器のデータを表示、操作したい」

ユーザ ID モード

セキュリティレベルにユーザ ID とパスワードを登録して表示器の画面にセキュリティレベルを設定します。

- 1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開くので [セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[ユーザ ID を追加する] にチェックを入れます。[新規作成] をクリックしてパスワード登録エリアを追加します。クリックごとに登録エリアが 1 つずつ追加されます。

レベル	ID	パスワード
1		
1		

- 3 状況監視担当者用、メンテナンス担当者用のセキュリティレベルと、ユーザ ID、パスワードをそれぞれ [レベル]、[パスワード]、[ID] に設定します。(例: [レベル]: 「1」 [パスワード]: 1111、[ID]: Monitor、[レベル]: 「15」 [パスワード]: 「5555」 [ID]: Admin)

セキュリティ機能を使用する [エクスポート](#)

ユーザIDを追加する [新規作成](#) [削除](#)

レベル	ID	パスワード
1	Monitor	1111
15	Admin	5555

MEMO

- パスワードは半角英数 8 文字以内で設定してください。

- 4 続いて [機能別にセキュリティ設定する] にチェックを入れ [項目] の操作に対し手順 2 で設定したレベルを設定します。(例: [GP-Viewer データ値読み込み] レベル「1」、[GP-Viewer データ値書き込み] レベル「15」)

機能別にセキュリティ設定する

項目	レベル	無効
オフライン画面移行	0	
ロジックモニタ	0	
オンラインロジックエディット	0	
GP-Viewer データ値読み込み	0	
GP-Viewer データ値書き込み	1	<input type="checkbox"/>
Web Serverコンテンツ閲覧	15	

[拡張設定](#)

MEMO

- [GP-Viewer データ値読み込み] を設定するときは、先に [GP-Viewer データ値書き込み] のレベルを設定してください。
- セキュリティレベルを設定した後はプロジェクトファイルを表示器に転送する必要があります。
- GP-Viewer EX でのセキュリティ操作については以下を参照してください。
 - ☞ GP-Viewer EX オペレーションマニュアル「GP-Viewer EX で表示器のデータを表示、操作したい」
- 無効にチェックをつけると、セキュリティレベルに関係なくその機能は実行できなくなります。
- 無効にチェックをつけた後、有効に戻したい場合は、作画ソフトにて変更後、プロジェクトファイルを転送し直してください。オフラインメニューから有効に戻すことはできません。

重要

- [GP-Viewer データ値読み込み] にセキュリティを設定しない場合のみ [ユーザ ID の切り替え] または [セキュリティレベルの切り替え] ダイアログで不正なパスワードを入力するとセキュリティレベルが 0 に戻ります。

37.6 GP-Viewer EX を利用した場合の同期、非同期のしくみ

37.6.1 画面モードとは

画面モードには表示器の画面データと同じ状態で GP-Viewer EX に表示する同期モード、または表示器の画面切り替えに影響されず、GP-Viewer EX と表示器の画面データを非同期で表示する 2 つの方法があります。この画面モードと表示器に設定されているセキュリティレベル、GP-Viewer EX でログオンしているセキュリティレベルにより GP-Viewer EX での動作が異なります。以下に画面モードとセキュリティレベルの関係による動作のしくみをご紹介します。

画面モード	
画面同期	GP-Viewer EX は表示器側と同じ画面番号の画面を表示します。
画面非同期	GP-Viewer EX は、表示器側の画面切り替えに影響されず、表示器側とは別画面を表示できます。

37.6.2 GP-Viewer EX 起動時

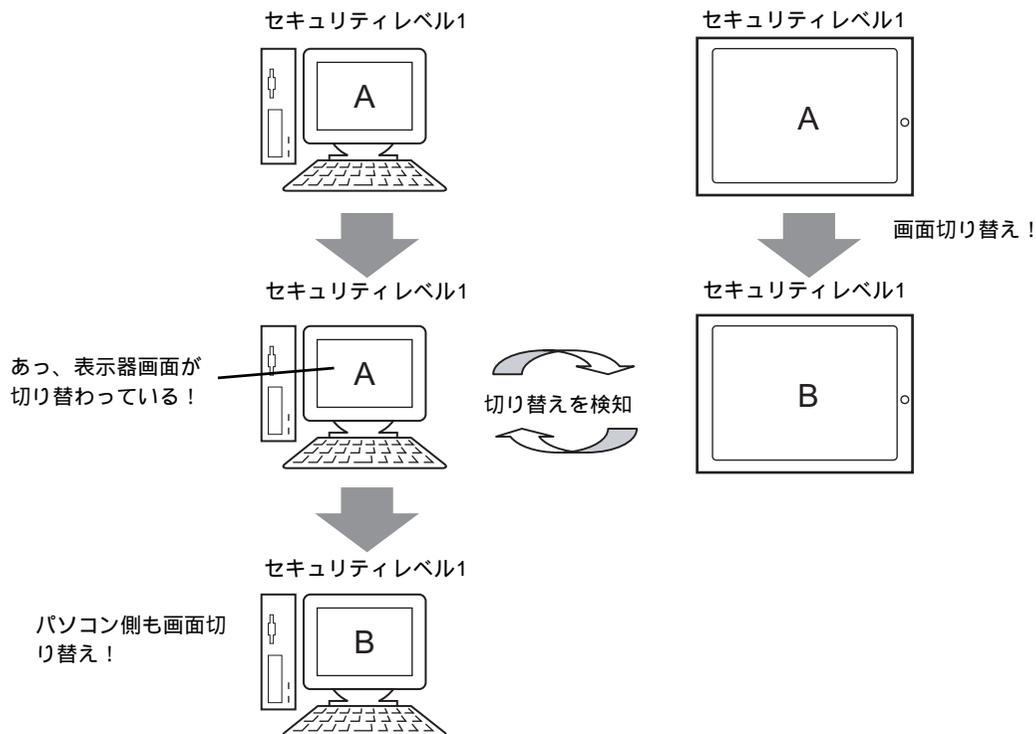
GP-Viewer EX 時の画面モードとセキュリティレベルの関係は以下のようになります。

設定ファイルの有無	設定ファイル保存時の画面モード	GP-Viewer EX での動作
なし		表示器に表示されている画面のセキュリティレベル以上のレベルでログオンできれば表示器の画面を [同期モード] で表示します。
		表示器に表示されている画面のセキュリティレベル以下のレベルでは表示する権限がないので表示器の初期画面を [非同期モード] で表示します。
あり	同期モード	表示器に表示されている画面のセキュリティレベル以上のレベルでログオンできれば表示器の画面を [同期モード] で表示します。
	非同期モード	表示器の初期画面を [非同期モード] で表示します。

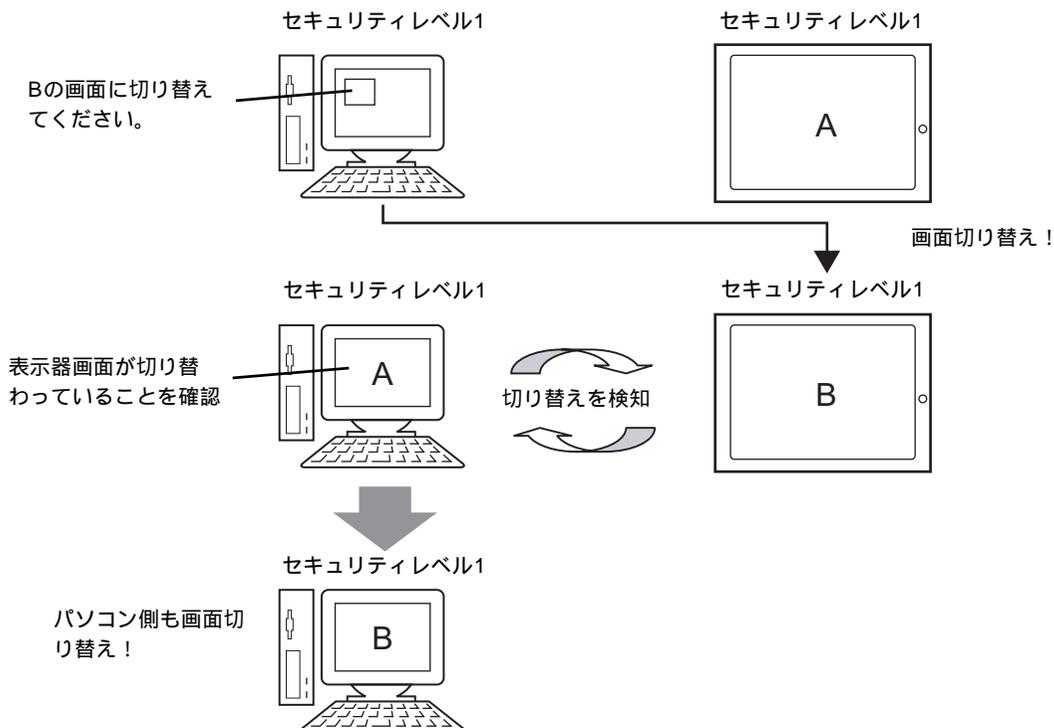
37.6.3 画面切り替え時

同期モード（表示器と GP-Viewer EX のセキュリティレベルが同じ「1」の場合）

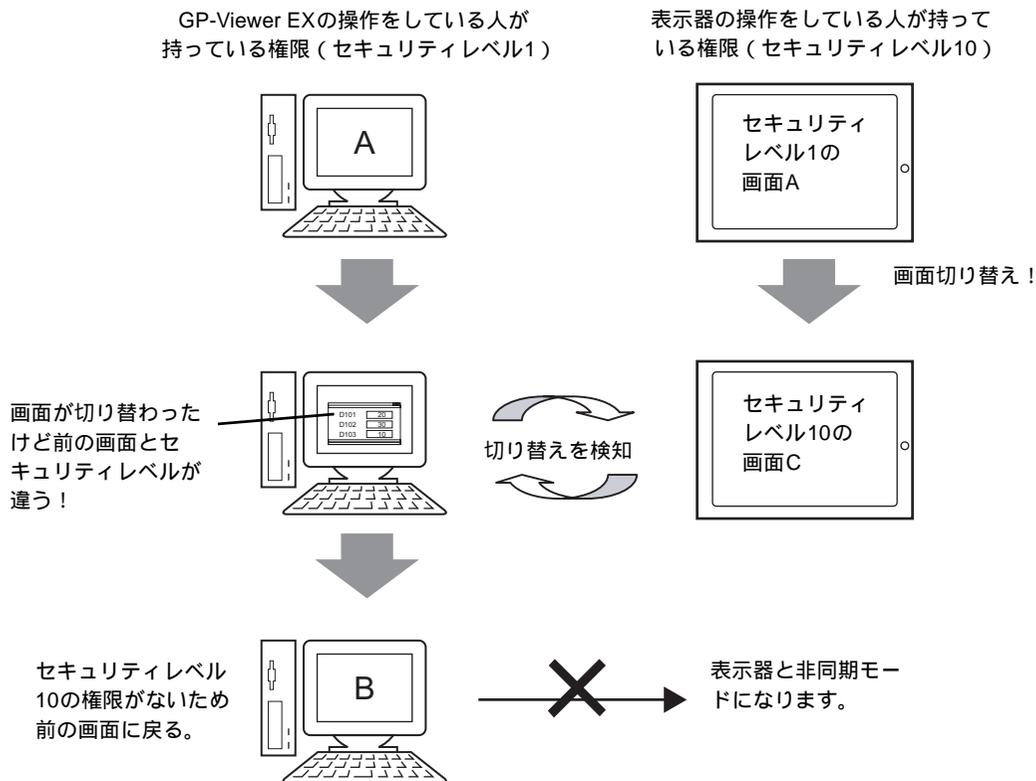
- 表示器からの画面切り替え



- GP-Viewer EX からの画面切り替え



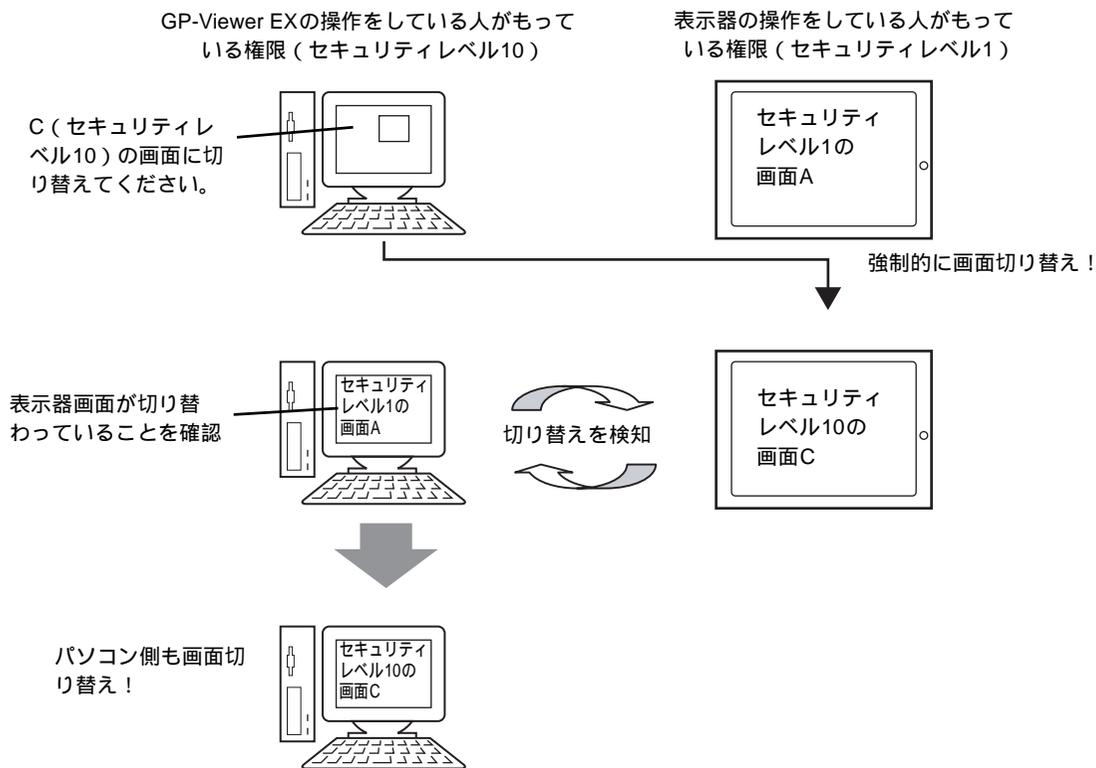
同期モード（GP-Viewer EX のセキュリティレベルが「1」、表示器のセキュリティレベルが「10」の場合）



MEMO

- GP-Viewer EX にセキュリティレベル 10 の権限がない場合は、[画面認証] ダイアログボックスの [キャンセル] をクリックして前の画面に戻り、画面モードが [非同期モード] になります。
- GP-Viewer EX にセキュリティレベル 10 の権限がある場合はパスワードを入力すると表示器と同期した画面が表示されます。
- 画面切り替えと同様にウィンドウ表示操作すると、表示器側にセキュリティレベルの 10 の権限がなくても強制的にウィンドウが表示される場合があります。

同期モード（GP-Viewer EX のセキュリティレベルが「10」、表示器のセキュリティレベルが「1」
の場合）

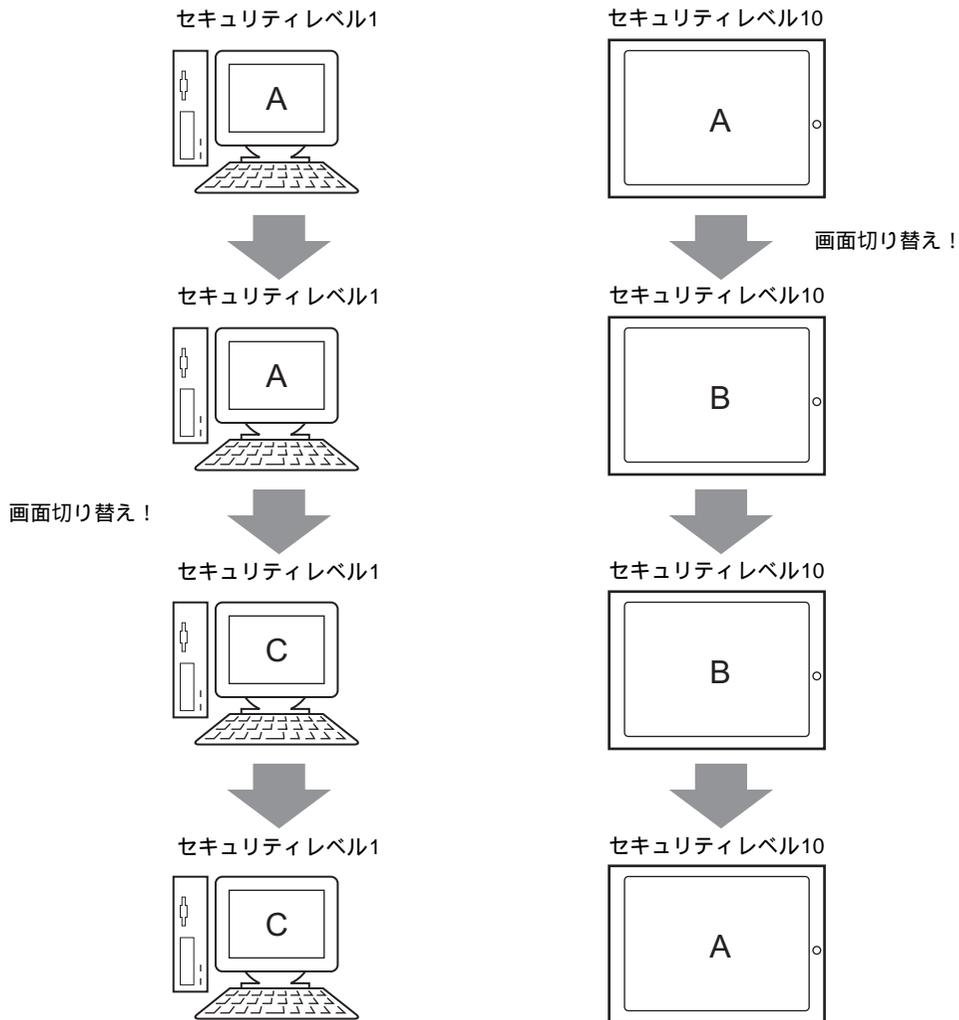


重要

- GP-Viewer EX によって高いセキュリティレベルの画面に表示器の画面を変更した場合は、表示器への接続を切断する前に表示器側のセキュリティレベルで操作できる画面に戻してから切断してください。
GP-Viewer EX によって一時的に高いセキュリティレベルが与えられた状態であると、元々表示器側が持っているセキュリティレベルでは操作できなくなる場合があります。
上記の操作をせずに GP-Viewer EX を切断した場合は、再度 GP-Viewer EX を接続し直してから、表示器の画面を切り替える必要があります。

非同期モード（GP-Viewer EX のセキュリティレベルが「1」の場合）

GP-Viewer EX は表示器の画面が移行しても、同期せず GP-Viewer EX で表示していた画面を表示します。



37.6.4 画面操作時

画面モード	画面切り替え (有効 / 無効)	GP-Viewer EX からの書き込み	GP-Viewer EX での動作
同期モード			GP-Viewer EX で操作した結果は、表示器に反映されます。ただし、同じ画面番号の画面を表示しているだけで、表示器の動作とは完全に一致しているわけではありません。例えば、アラーム部品の操作では、スクロールの位置が表示器と違う場所を表示する場合があります。
	×		表示器が表示している画面内の情報を見て、デバイス値を変更する操作ができませんが、画面切り替えはできません。ただし、デバイス値の変化によって、表示器側の画面が切り替わる場合があります。その場合は、GP-Viewer EX の画面も切り替わります。
		×	表示器画面を遠隔表示します。画面切り替え時に認証画面が表示され、認証に成功すれば GP-Viewer EX から表示器画面を切り替えられます。認証が成功すると、接続関係が画面切り替え有効、GP-Viewer EX からの書き込みも有効になります。
	×	×	表示器画面を遠隔表示します。操作はできません。表示器が画面を切り替えると、GP-Viewer EX 側の画面も切り替わりません。
非同期モード	または × (画面切り替えの設定に依存しません)		GP-Viewer EX と表示器は別々の画面を表示し、日々の状況監視を行います。メンテナンスの必要があれば書き込み権限のあるセキュリティレベルでログオンし、デバイス書き込みによって機器のメンテナンスを行います。
	または × (画面切り替えの設定に依存しません)	×	メンテナンス用の画面を遠隔地で監視します。操作、変更はできません。指定した状況監視画面を常に表示します。

37.7 Internet Explorer で GP のアラームやデバイスアドレスを表示 / メンテナンスしたい (Web Server)

37.7.1 Web Server とは

概要

Web Server はアラームやデバイスアドレスを公開し、Internet Explorer でこれらの情報を表示できます。また CF カードや USB ストレージのファイルも公開できるため、簡単なメンテナンスができます。

この機能を使用するにはパソコンと表示器が同じネットワーク上に設置されている必要があり、GP-Pro EX で [Web Server の設定] で [Web Server を使用する] に設定する必要があります。

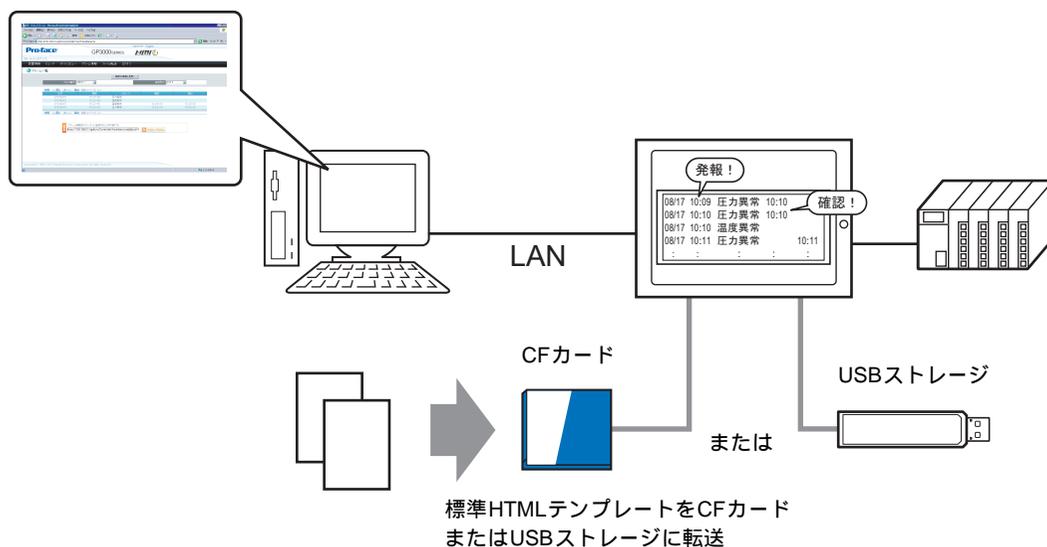
ライセンスについて

この機能の使用にライセンスは必要ありません。

GP-Pro EX (Ver2.10 以上) の CD-ROM に Web コンテンツが標準でインストールされているので Web コンテンツを GP に転送し、GP とパソコンが同じネットワーク上に設置されていればご利用いただけます。

全体構成

Web Server 使用時の接続またはオプション環境は以下のようになります。



37.8 Web Server を利用した場合の動作環境、開発の流れ

37.8.1 対象機種

Web Server に対応している表示器の機種は以下のとおりです。

表示器

シリーズ	機種	型番	
GP-3000 シリーズ	GP3200A ¹	AGP3200-A1-D24	
	GP3200T ¹	AGP3200-T1-D24	
	GP-3300HL	AGP3300H-L1-D24	
	GP-3300HS	AGP3300H-S1-D24	
	GP-3310HT	AGP3310H-T1-D24	
	GP3300L ¹		AGP3300-L1-D24
			AGP3300-L1-D24-D81K
			AGP3300-L1-D24-D81C
			AGP3300-L1-D24-FN1M
			AGP3300-L1-D24-CA1M
	GP3300S ¹		AGP3300-S1-D24
			AGP3300-S1-D24-D81K
			AGP3300-S1-D24-D81C
			AGP3300-S1-D24-CA1M
	GP3300T ¹		AGP3300-T1-D24
			AGP3300-T1-D24-D81K
			AGP3300-T1-D24-D81C
			AGP3300-T1-D24-FN1M
			AGP3300-T1-D24-CA1M
	GP3400S		AGP3400-S1-D24
			AGP3400-S1-D24-D81K
			AGP3400-S1-D24-D81C
			AGP3400-S1-D24-CA1M
	GP3400T		AGP3400-T1-D24
			AGP3400-T1-D24-D81K
			AGP3400-T1-D24-D81C
			AGP3400-T1-D24-FN1M
			AGP3400-T1-D24-CA1M
	GP3450T		AGP3450-T1-D24
	GP3500L		AGP3500-L1-D24
			AGP3500-L1-D24-D81C
	GP3500S		AGP3500-S1-D24
			AGP3500-S1-D24-D81K
AGP3500-S1-D24-D81C			
AGP3500-S1-D24-CA1M			
AGP3500-S1-AF			
AGP3500-S1-AF-D81K			
AGP3500-S1-AF-D81C			
AGP3500-S1-AF-CA1M			

次のページに続きます。

シリーズ	機種	型番	
GP-3000 シリーズ	GP3500T	AGP3500-T1-D24	
		AGP3500-T1-D24-D81K	
		AGP3500-T1-D24-D81C	
		AGP3500-T1-D24-FN1M	
		AGP3500-T1-D24-CA1M	
		AGP3500-T1-AF	
		AGP3500-T1-AF-D81K	
		AGP3500-T1-AF-D81C	
		AGP3500-T1-AF-FN1M	
		AGP3500-T1-AF-CA1M	
		GP3510T	AGP3510-T1-AF
			AGP3510-T1-AF-CA1M
	GP3550T	AGP3550-T1-AF	
	GP3560T	AGP3560-T1-AF	
	GP3600T	AGP3600-T1-D24	
		AGP3600-T1-D24-D81K	
		AGP3600-T1-D24-D81C	
		AGP3600-T1-D24-FN1M	
		AGP3600-T1-D24-CA1M	
		AGP3600-T1-AF	
		AGP3600-T1-AF-D81K	
		AGP3600-T1-AF-D81C	
		AGP3600-T1-AF-FN1M	
		AGP3600-T1-AF-CA1M	
	GP3650T	AGP3650-T1-AF	
	GP3750T	AGP3750-T1-AF	
		AGP3750-T1-D24	

- 1 表示器タイプで GP-3200、3300 シリーズを選択している場合は Web Server 機能を使用すると、Web Server 機能のためユーザー画面エリアに 1M バイトが割り当てられます。送信データサイズに 1M バイトが追加されます。

対応 OS

Web Server に対応している機種は以下のとおりです。

Windows[®] 2000 (Service Pack 3 以上)

Windows[®] XP (Service Pack 2)

Windows Vista[®] Ultimate

Windows Vista[®] Home Premium/Basic

Windows Vista[®] Business

Windows Vista[®] Enterprise

Windows Server[®] 2003 (Service Pack 2)

対象ブラウザ

Internet Explorer 6

Internet Explorer 7

37.8.2 対応機能一覧

標準 HTML テンプレートで表示 / 操作できる機能

- サイトへのログオン
- サイトからのログオフ
- デバイスビュー
- GP-Viewer EX のインストールされているパソコンの場合は、GP-Viewer EX を起動
- FTP サーバ機能として表示器に接続されている CF カード (USB ストレージ) のファイル一覧の取得、ファイルの取得、削除、属性変更、書き込み
- アラーム表示機能
- アラーム表示機能 (RSS データ表示)

37.8.3 開発の流れ

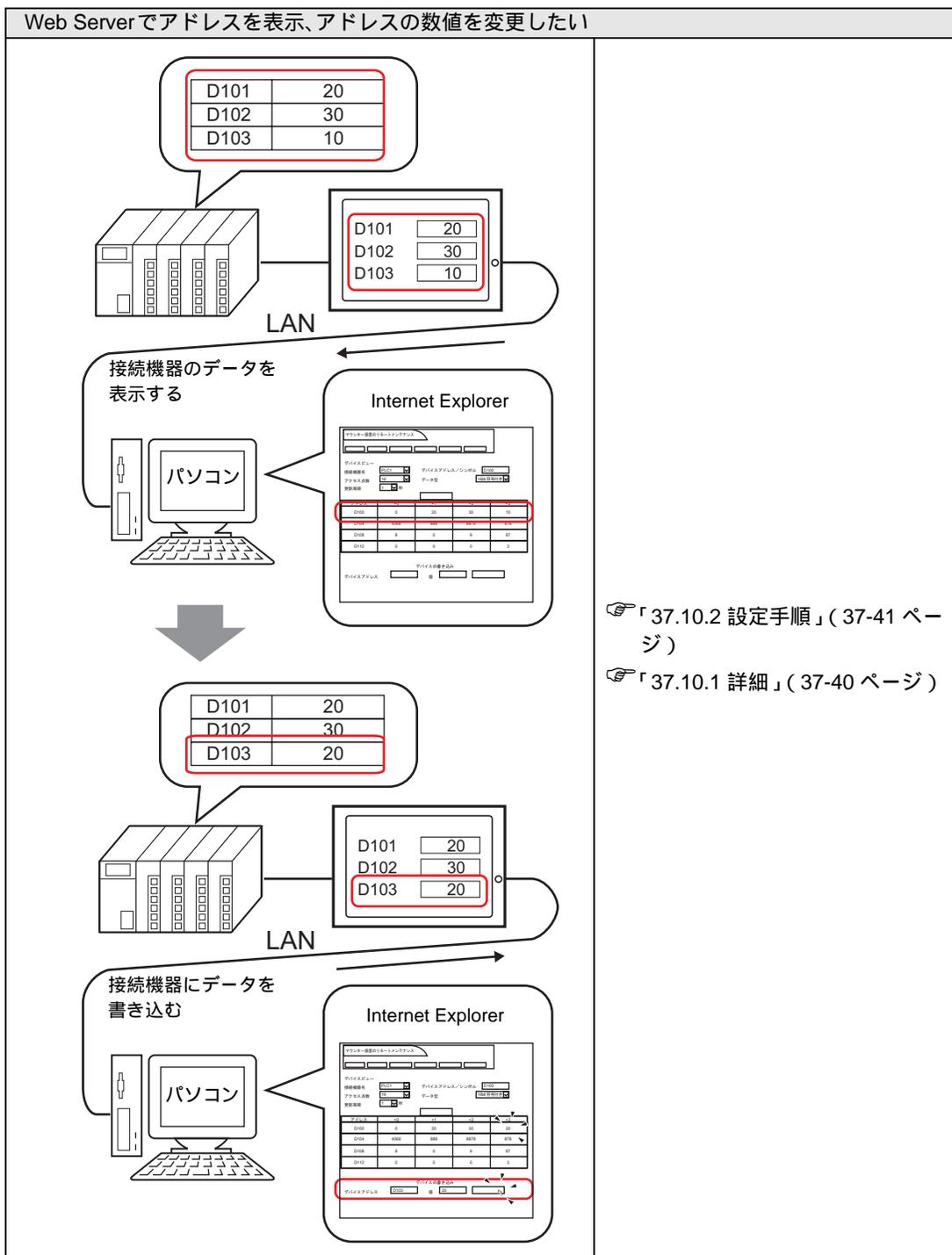


37.9 設定メニュー

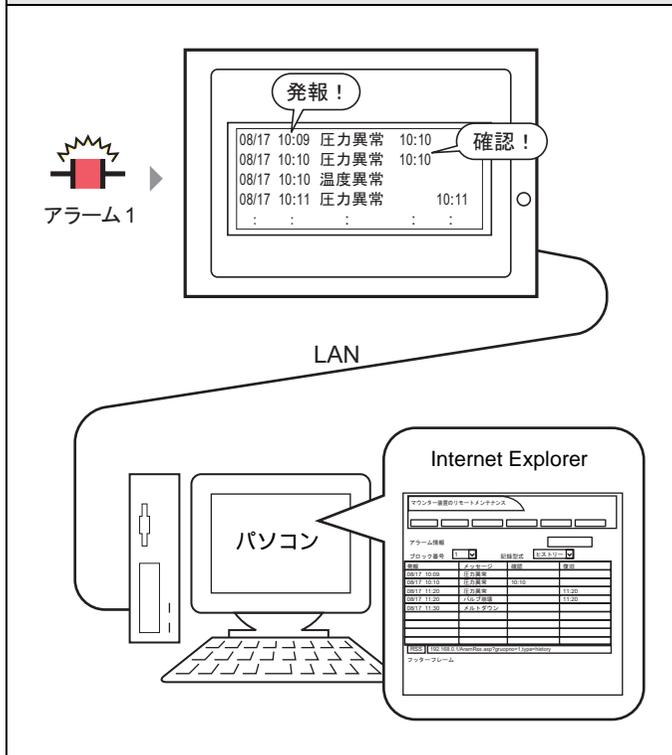
この章で紹介する機能を使用できる本体機種には制限があります。設定を行う前に、ご使用の機種が機能に対応しているかどうかご確認ください。

☞ 「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-6 ページ)

37.9.1 Web Server の設定メニュー

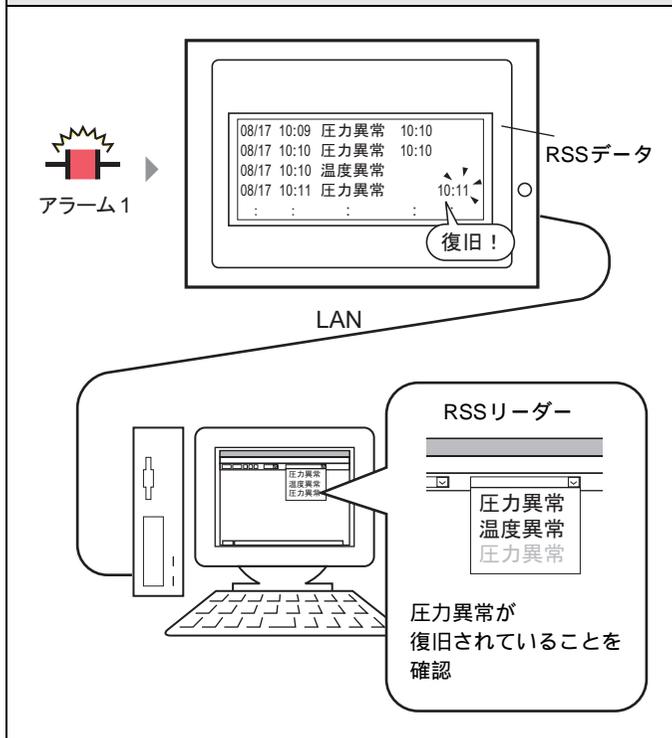


Web Serverでアラーム情報を表示したい



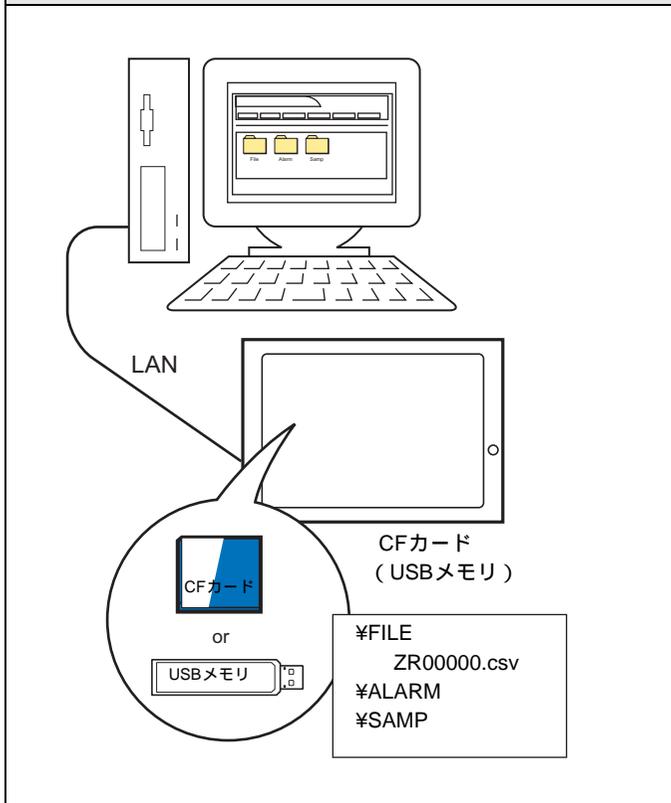
- ☞ 「37.11.2 操作手順」(37-54 ページ)
- ☞ 「37.11.1 詳細」(37-53 ページ)

Web Serverでアラーム情報をRSSデータとして表示したい



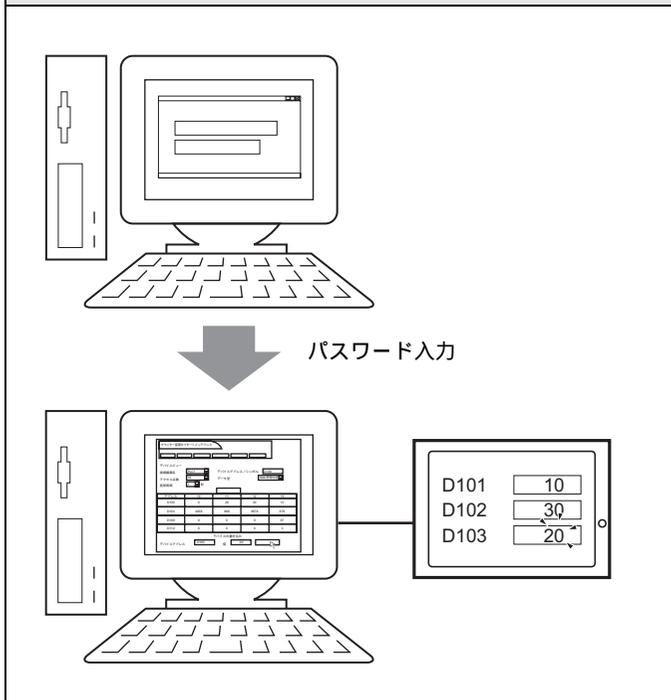
- ☞ 「37.12.2 設定手順」(37-56 ページ)
- ☞ 「37.12.1 詳細」(37-55 ページ)

Web ServerでCFカード(USBストレージ)にファイルを転送したい



- ☞ 「37.13.2 設定手順」(37-59 ページ)
- ☞ 「37.13.1 詳細」(37-58 ページ)

Web Serverで表示/操作できる人を制限したい(セキュリティ)

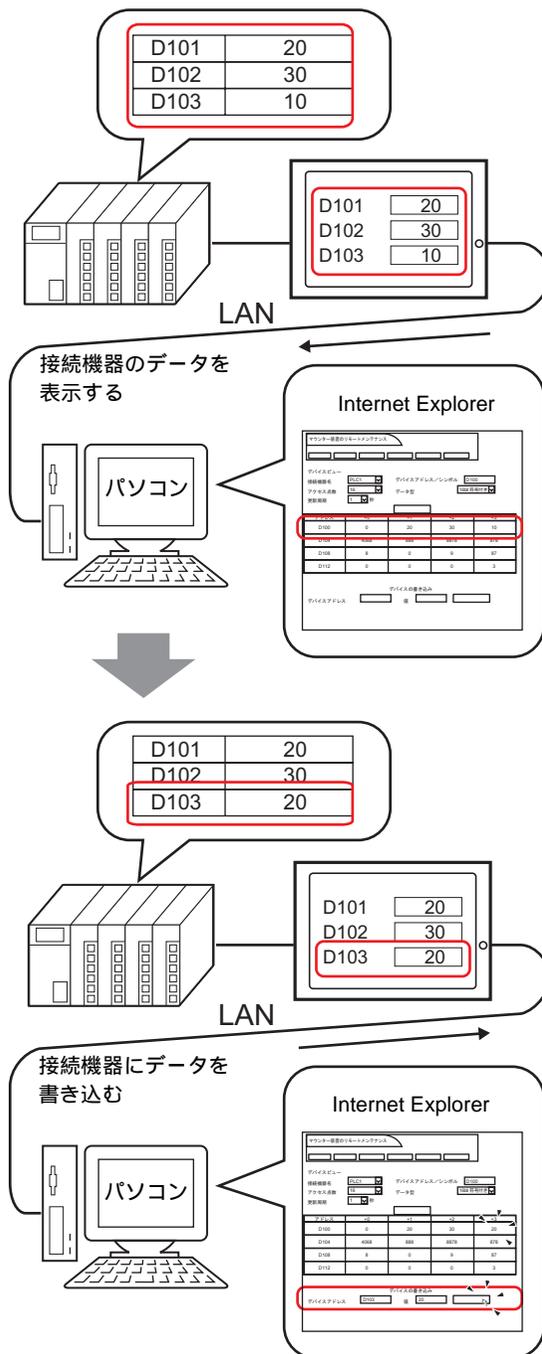


- ☞ 「37.14.2 設定手順」(37-66 ページ)
- ☞ 「37.14.1 詳細」(37-65 ページ)

37.10 Web Server でアドレスを表示、アドレスの数値を変更したい

37.10.1 詳細

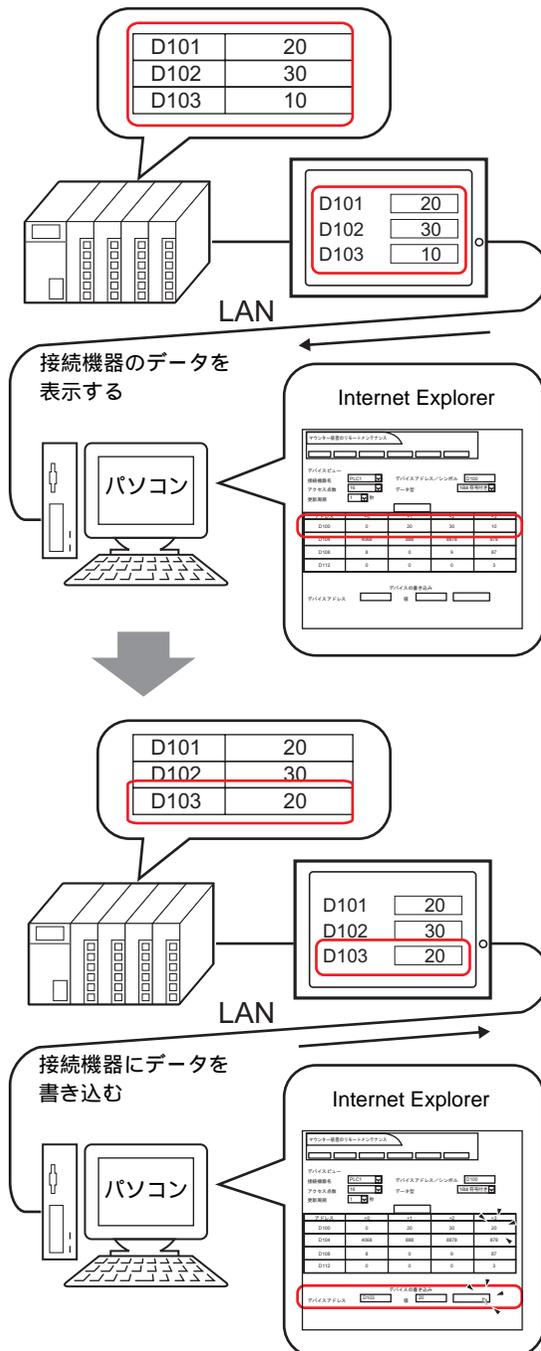
Web Server 機能を使って、Internet Explorer 上にネットワークの GP に接続されている接続機器アドレスの値を表示、またはその値を変更することができます。



37.10.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。
- ☞ 「37.15.1 標準テンプレート HTML の設定ガイド」(37-72 ページ)
- ☞ 「37.15.2 システム設定ウィンドウ[本体設定] - [遠隔監視設定] の設定ガイド」(37-79 ページ)



必要な機器

- 1 表示器（対応機種は「37.8.1 対象機種 表示器」(37-32 ページ)を参照してください。）
- 2 GP-Pro EX (Ver2.10 以上)
- 3 パソコン（対応機種は「37.8.1 対象機種 対応 OS」(37-34 ページ)を参照してください。）
- 4 LAN ケーブルおよび HUB（市販品）

概要手順

- 1 GP-Pro EX を起動し、プロジェクトファイルを新規作成します。
- 2 GP-Pro EX にて作画します。Web Server 機能やセキュリティ機能も設定します。
- 3 プロジェクトファイルを転送します。
- 4 標準 HTML テンプレートを表示器に転送します。
- 5 表示器とパソコンを接続します。
- 6 Internet Explorer を起動し、インターネットオプションを設定します。

GP-Pro EX の起動～プロジェクト作成

GP-Pro EX を起動し、プロジェクトファイルを新規作成します。起動方法は「5.2.2 設定手順」(5-9 ページ)の手順と同様です。

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。
☞「5.17.2 [新規作成]の設定ガイド」(5-99 ページ)

作画、保存

作画

GP-Pro EX にて作画します。作画方法は「5.2.2 設定手順 作成・保存する」(5-13 ページ)を参照してください。またアラームなど使用したい機能に応じて、関連する章を参照してください。

重要

- Web Server でご利用いただける機能には相違があります。Web Server で使用できる機能については下記を参照してください。
☞「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-6 ページ)

Web Server 機能

システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] を開き、[Web Server の設定] で、[Web Server を使用する] にチェックが入っていることを確認します。また [指定先] で Web Server 機能使用時の標準 HTML テンプレート転送先を [CF カード] と [USB ストレージ] から選択し、[フォルダ指定] で転送先のフォルダのパスを設定します。（例：[指定先]：CF カード、[フォルダ指定]：WebSite、[ファイル名省略時のデフォルトページ]：default.html、[HTTP プロトコルのポート番号]：80）



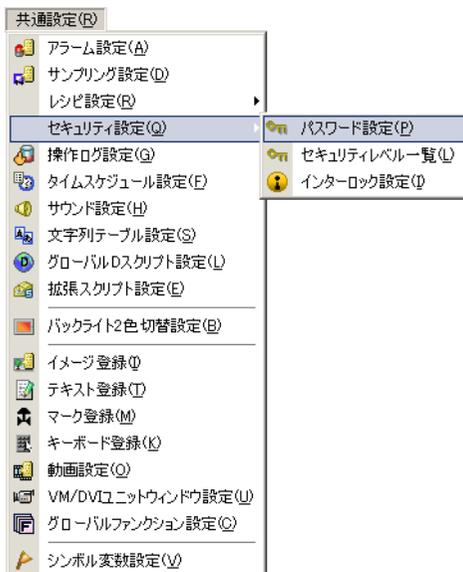
セキュリティ機能

Web Server で表示器に表示されているデータを表示、操作できる人を制限したい場合にセキュリティ設定を行います。メンテナンス担当者用セキュリティレベル 15 とパスワード (5555) を設定します。また状況監視担当者用のセキュリティレベル 1 とパスワード (1111) を設定します。

MEMO

- セキュリティ機能を設定しなくても Web Server はご利用いただけます。

- 1 GP-Pro EX の [共通設定 (R)] から [セキュリティ (Q)] を選択し、[パスワード設定 (P)] を選択するか、 をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[レベル 1] にパスワード「1111」を、[レベル 15] にパスワード「5555」を入力します。

MEMO

- 各レベルにユーザ ID を設定する場合は以下を参照してください。
 「ユーザ ID モード」(37-69 ページ)

セキュリティ機能を使用する [エクスポート](#)

ユーザIDを追加する 新規作成 削除

レベル	パスワード	
1	1111	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	5555	

3 [機能別にセキュリティ設定する] にチェックが入っていることを確認し、2 で設定したレベルにそれぞれ、どの機能の操作を許可するか設定します。

(例：[Web Server データ値読み込み] レベル 1、[Web Server データ値書き込み] レベル 15)

機能別にセキュリティ設定する

項目	レベル	無効	
GP-Viewerデータ値書き込み	0	<input type="checkbox"/>	
Web Serverコンテンツ閲覧	0	<input type="checkbox"/>	
Web Serverデータ値読み込み	1	<input type="checkbox"/>	
Web Serverデータ値書き込み	15	<input type="checkbox"/>	
FTPフォルダ内のファイル閲覧	0	<input type="checkbox"/>	
FTPフォルダ内のファイル登録・削除	0	<input type="checkbox"/>	

[拡張設定](#)

MEMO

- 無効にチェックをつけると、セキュリティレベルに関係なくその機能は実行できなくなります。
- 無効にチェックをつけた後、有効に戻したい場合は、作画ソフトにて変更後、プロジェクトファイルを転送し直してください。オフラインメニューから有効に戻すことはできません。

転送

Web Server 機能を使用するには、次の 2 とおりのデータ転送を行う必要があります。

1. プロジェクトファイルを GP に転送
2. 標準 HTML テンプレートを CF カードまたは USB ストレージに転送

プロジェクトファイルの転送

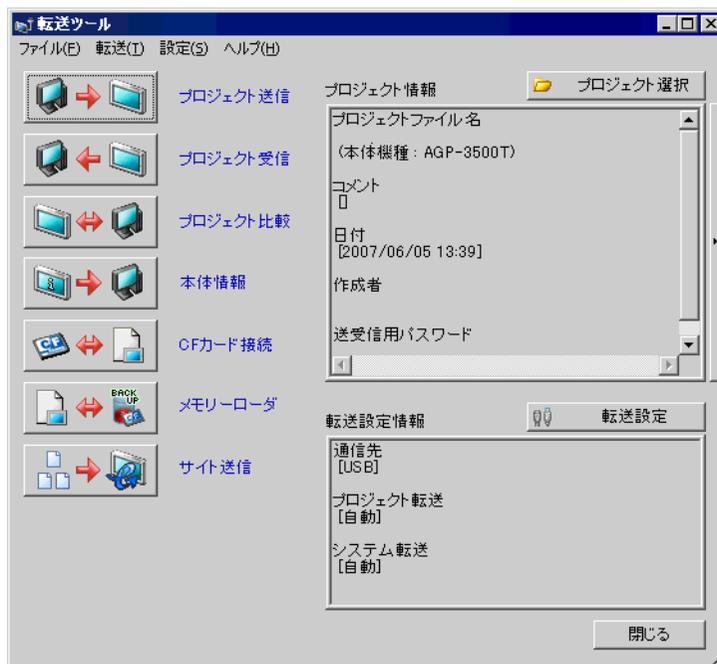
表示器にプロジェクトファイルを転送します。

プロジェクトファイル転送手順については以下を参照してください。

☞ 「33.1 設定メニュー」(33-2 ページ)

標準 HTML テンプレートの転送

- 1 GP-Pro EX の状態ツールバーから画面転送アイコンをクリックして転送ツールを起動します。



- 2 [サイト送信] ボタンをクリックすると、次のような [サイト送信] ダイアログボックスが表示されるので、[転送元] に標準 HTML テンプレートが保存されている場所を設定します。転送先のメディアに、転送するテンプレートを保存するためのフォルダを作成し、そのフォルダ名を入力してください。(例:「Website」) [OK] を選択すると標準 HTML テンプレートの送信を開始します。



MEMO

- Web Server 機能を使用するためには必ず標準 HTML テンプレートを表示器に転送してください。
標準 HTML テンプレートは C:\Program Files\Pro-faceGP-Pro EX 2.1\HTMLContent にインストールされます。転送方法は以下を参照してください。
☞「33.10 転送ツールの設定ガイド」(33-57 ページ)
- GP が記憶しているシステムプログラム (Runtime) が GP-Pro EX Ver2.10 より古いバージョンの場合は標準 HTML テンプレートを表示器に転送できません。
- [設定] をクリックして表示される [転送設定] 画面の [転送設定] タブで [サイトデータを転送する] にチェックを入れておくとプロジェクトファイルの転送と標準 HTML サイトの転送を同時に行うことができます。詳細は以下を参照してください。
☞「33.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(33-60 ページ)
- ランタイムをバージョンアップした場合は、HTML テンプレートもバージョンアップ (上書きで転送) を実施してください。正しく動作しない場合があります。

- 3 転送が完了すると、ダイアログボックスの状態表示が [転送中] [転送完了] に変わります。[閉じる] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

表示器とパソコンの接続

表示器とパソコンを HUB と LAN ケーブルで接続します。

重要

- イーサネットで通信するためには GP にイーサネットの設定 (IP アドレス、ポート番号など) を行う必要があります。

MEMO

- 表示器の IP アドレスはオフラインモードの [本体設定] - [イーサネット設定] で設定します。詳細設定手順は以下を参照してください。
☞ 保守 / トラブル解決ガイド「表示器に IP アドレスを設定したい」
- イーサネット通信には必ず HUB を使用してください。クロスケーブルによる 1:1 接続ではパソコンやネットワークカードによって使用できない場合があります。

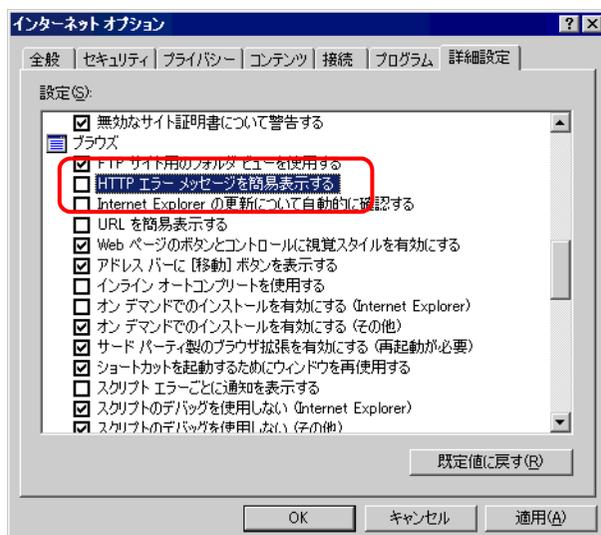
37.10.3 操作手順

Internet Explorer の起動と設定

1 Internet Explorer を起動します。

2 [ツール(T)] メニューから [インターネットオプション(O)] を選択すると [インターネットオプション] ダイアログボックスが表示されるので [詳細設定] タブをクリックして、以下の項目を設定してください。

- (1) [FTP サイト用のフォルダビューを使用する] にチェックを入れる。
- (2) [HTTP エラーメッセージを簡易表示する] のチェックをはずす。
- (3) [パッシブ FTP(ファイアウォールおよび DSL モデム互換用) を使用する] にチェックを入れる。」



Web Server に接続

1 Internet Explorer を起動し、[アドレス(D)] に接続する表示器の IP アドレスを設定します。

(例：192.168.0.1)



- 2 Enter キーを押すと表示器の Web Server に接続します。セキュリティ設定を行っている場合は次のような [ネットワークパスワードの入力] ダイアログボックスが表示されるので設定しているパスワードを半角英数 8 文字以内で設定し、[OK] をクリックします。

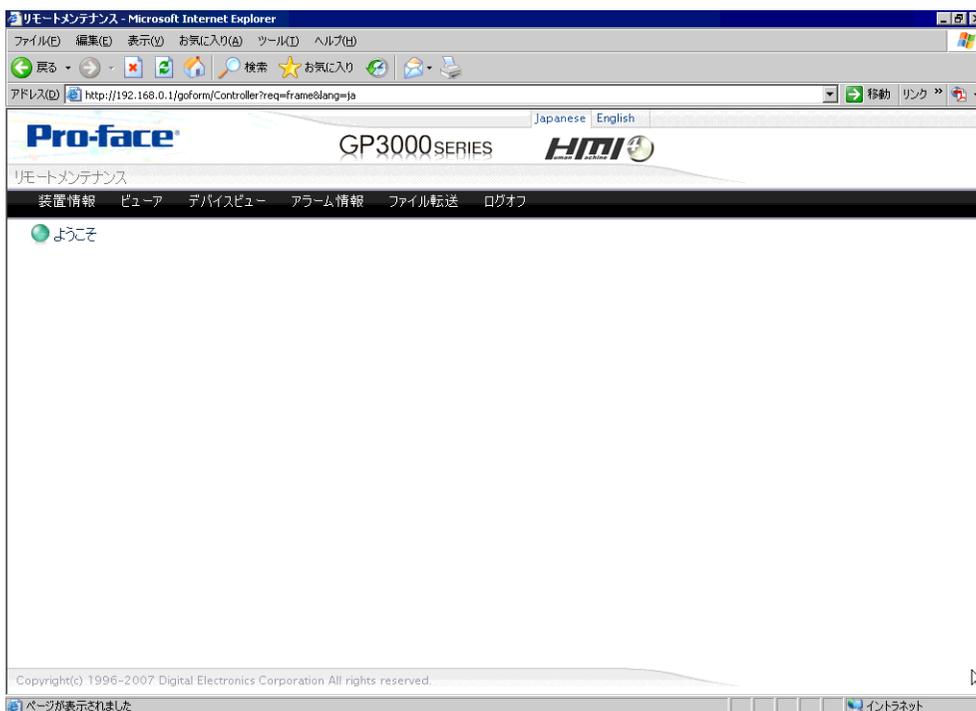
(例 : 「5555」(GP のデータを表示、操作できるセキュリティレベル))



MEMO

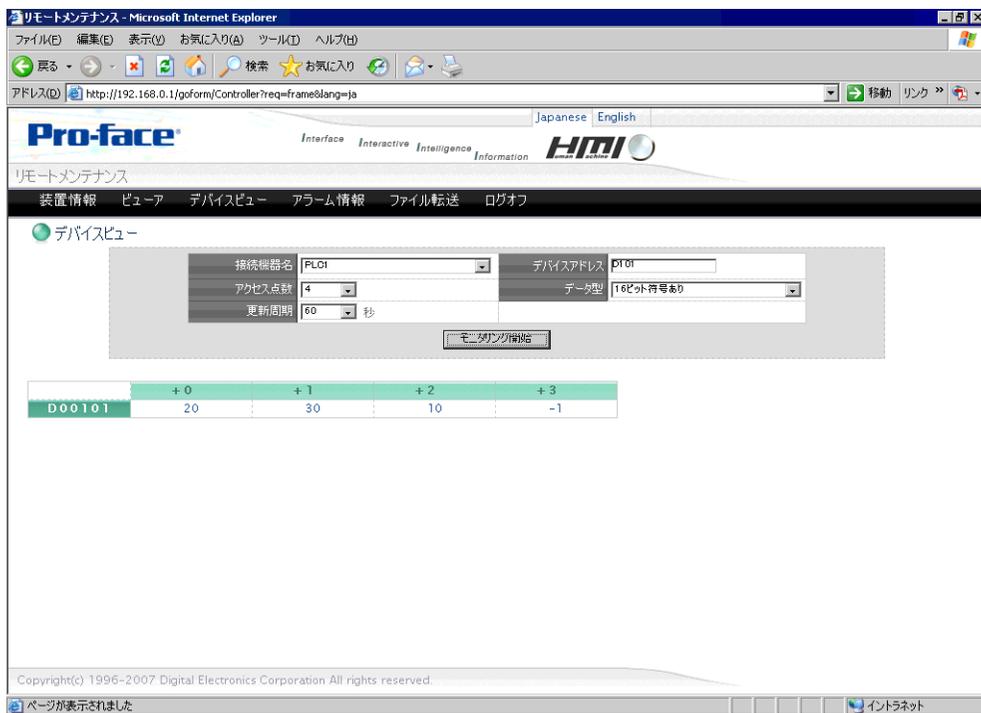
- セキュリティ設定で [ユーザ ID] を設定している場合は、[ユーザー名] も入力する必要があります。
- Internet Explorer を終了し、Web Server を再起動する際に URL を直接入力してもセキュリティが設定されている場合はパスワードを入力する必要があります。

- 3 表示器の Web Server に接続され次のような [ようこそ] 画面が表示されます。

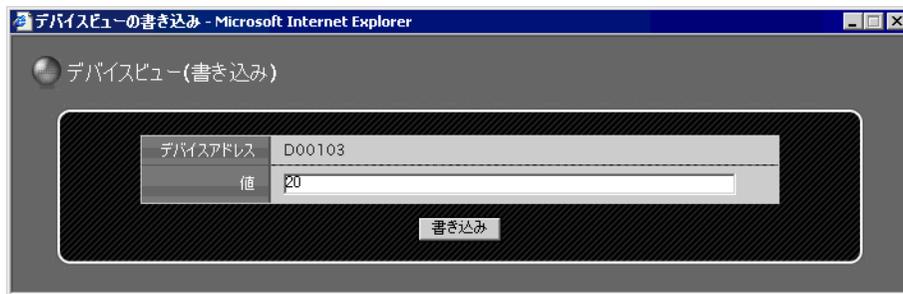


Web Server で GP のデータを表示 / 操作

- 1 HTML ページの上に表示されるメニューから [デバイスビュー] を選択します。
- 2 [デバイスビュー] の画面が表示されるので表示するデバイスアドレスの範囲、更新周期を設定します。表示するデバイスの [接続機器名]、[デバイスアドレス]、[アクセス点数]、[データ型] で設定し、またデバイスをモニタする周期を [更新周期] で設定します。[モニタリング開始] を選択するとモニタを開始し画面を表示します。
(例 : [接続機器名] : PLC1、[デバイスアドレス] : D101、[アクセス点数] : 4、[データ型] : 16 ビット符号あり、[更新周期] : 60



- 3 変更する値をクリックすると [デバイスビュー書き込み] ダイアログボックスが表示されるので変更する値を [値] に入力します。[書き込み] を選択すると設定した値が GP に接続している接続機器に反映されます。(例 : [デバイスアドレス] D103、[値] 20)



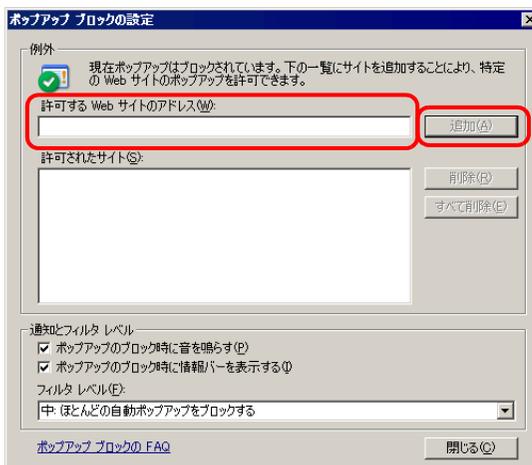
重要

- Windows XP Service Pack2 でホームページを表示した際は、ユーザの意図と関係なく、開かれるブラウザウィンドウ（ポップアップウィンドウ）をブロックする機能があるため、Web Server で値を入力する場合はポップアップの起動が許可されていることを確認する必要があります。
許可する方法は以下を参照してください。

< 特定の URL のポップアップウィンドウを許可する場合 >

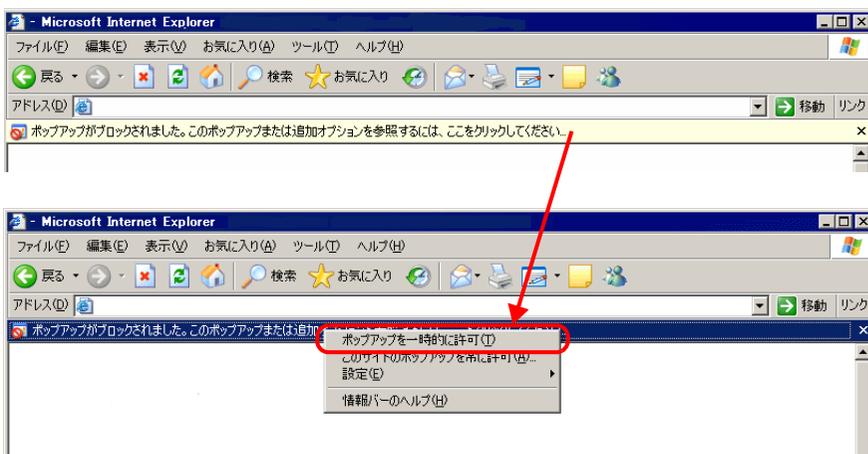
Internet Explorer の [ツール (T)] メニューから [ポップアップブロック (P)] を選択し、[ポップアップブロックの設定 (P)] を開くと次のようなダイアログボックスが表示されます。

[許可する Web サイトのアドレス (W)] に URL を入力し、[追加 (A)] をクリックします。



< ポップアップウィンドウを一時的に許可する場合 >

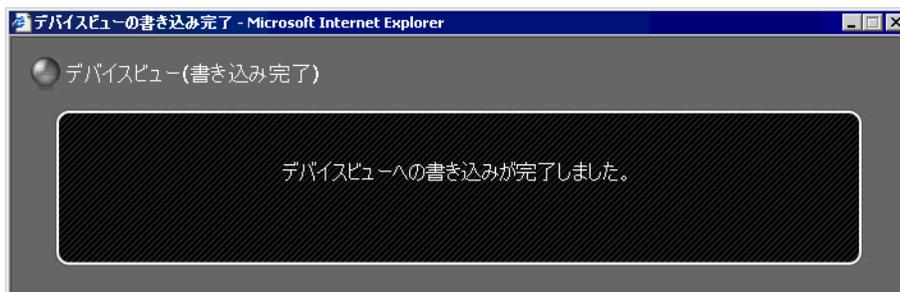
情報バーをクリックし、表示されたメニューより [ポップアップを一時的に許可 (T)] をクリックするとブロックしたウィンドウを表示することができます。



MEMO

- [値] の入力欄に書き込む値をスペースまたはカンマで区切って複数入力し、[書き込み] を選択すると選択しているアドレスから連続したアドレスへ同時に値を書き込むことができます。ただし、連続で入力できるアドレス数は [データ型] により以下のように異なります。

データ型	入力点数
ビット	128 点
16 ビット符号あり	36 点
16 ビット符号なし	42 点
16 ビット HEX	51 点
32 ビット符号あり	21 点
32 ビット符号なし	23 点
32 ビット HEX	28 点
単精度浮動小数点	28 点
倍精度浮動小数点	14 点
文字列	256 バイト



Web Server をログオフ

- 1 GP の内容を表示、操作が終了したら、Web Server をログオフします。メニューから [ログオフ] を選択すると次のようなダイアログボックスが表示されるので [OK] を選択します。



- 2 さらに次のようなダイアログボックスが表示されるので [はい] を選択します。

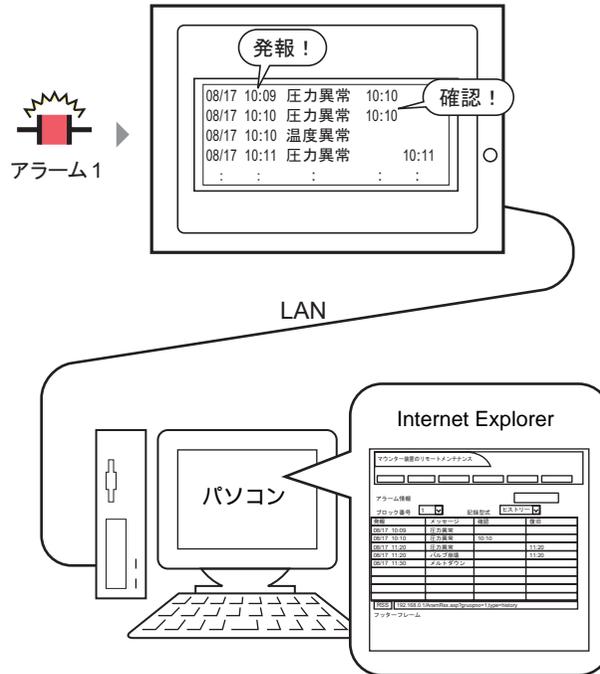


- 3 Internet Explorer を閉じて、接続が切断された状態になります。

37.11 Web Server でアラーム情報を表示したい

37.11.1 詳細

遠隔の GP で蓄積されている現在のアラーム情報を Internet Explorer で表示することができます。[最新の情報に更新] ボタンをクリックすると GP で発生している最新のアラーム情報を表示します。



MEMO

- GP にアラーム情報がない場合は何も表示されません。GP にアラーム表示する設定手順は以下を参照してください。

☞ 「19 章 アラーム」(19-1 ページ)

37.11.2 操作手順

1 Web Server にログオンし、[ようこそ] 画面が表示されたら [アラーム情報] を選択します。

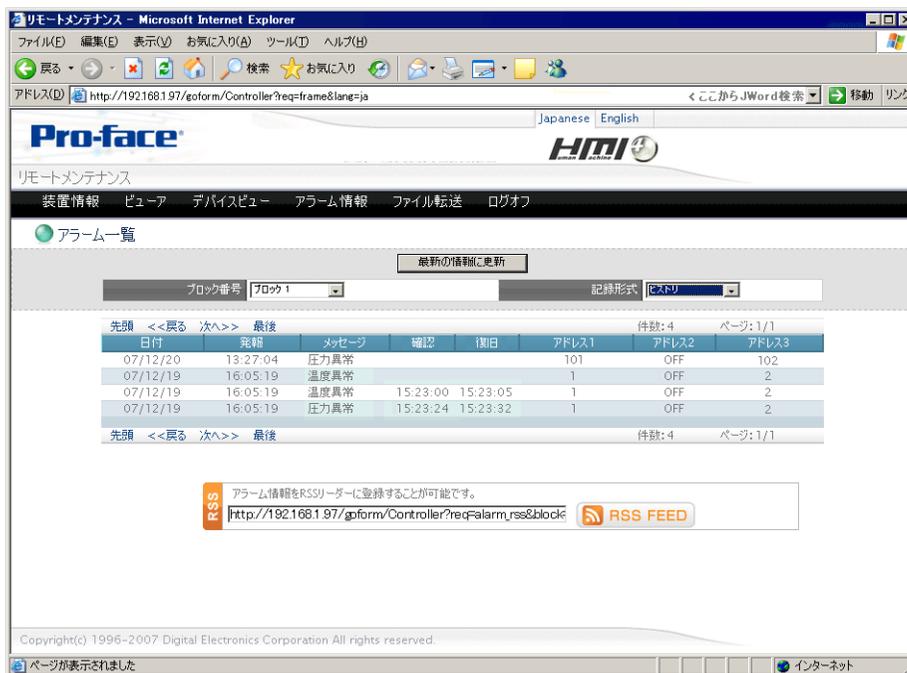
MEMO

- Web Server の設定、接続の手順は以下を参照してください。

☞ 「37.10 章 Web Server でアドレスを表示、アドレスの数値を変更したい」(37-40 ページ)

2 次のような画面が表示されるので [ブロック番号] で表示するアラームのブロック番号、また [記録形式] でアラームの表示モードを選択します。[最新の情報に更新] を選択すると、発生しているアラーム情報などが以下のように一覧で表示されます。

(例 : [ブロック番号] ブロック 1、[記録形式] ヒストリ)

**MEMO**

- 再度 [最新の情報に更新] ボタンを選択すると、最新のアラーム情報を取得します。

3 アラーム情報の参照が終了したら [ログオフ] を選択し、接続を切断します。

MEMO

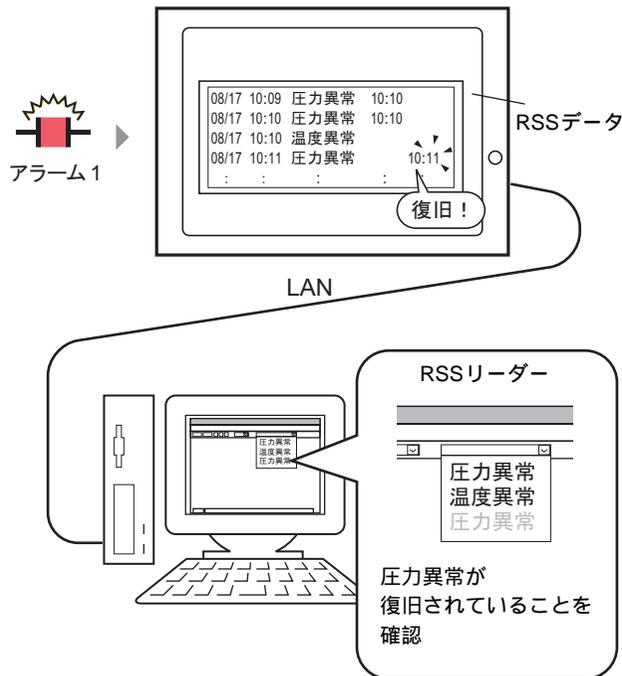
- アラーム発生時のデータ値を表示させるには、[共通設定 (R)] メニューの [アラーム設定 (A)] をクリックして [アラーム設定] 画面で [各アラーム登録でデータ取得] にチェックを入れ、値を取得したいアドレスを指定してください。詳細は以下を参照してください。
- 「19.10.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド アラーム設定 (ブロック 1) の設定ガイド」(19-82 ページ)

37.12 Web Server でアラーム情報を RSS データとして表示したい

37.12.1 詳細

遠隔の GP で蓄積されているアラーム情報をインターネットの RSS データとして表示します。

ここでは例としてアラームの更新情報をブラウザ機能のように RSS パーで表示するための設定手順をご紹介します。



RSS (Rich Site Summary) データとは

ホームページのタイトルや概要などの HTML データを構造化して記述するフォーマットのことで、主にサイトの更新情報を公開するのに使われています。

RSS データを利用することで、更新情報を統一した形で効率的に確認することができます。

RSS データを表示するためには RSS リーダー（アプリケーション版）が必要になり、RSS リーダーにより表示方法は異なります。弊社で動作確認を行った RSS リーダーソフトについては、（株）デジタルのサポート専用サイト「おたすけ Pro！」（<http://www.proface.co.jp/otasuke/>）で確認してください。

弊社の Web Server RSS Ver1.0 に対応しています。

RSS Ver1.0 に対応した RSS リーダーを使用してください。

37.12.2 設定手順

1 Web Server にログオンし、[ようこそ] 画面が表示されたら [アラーム情報] を選択します。

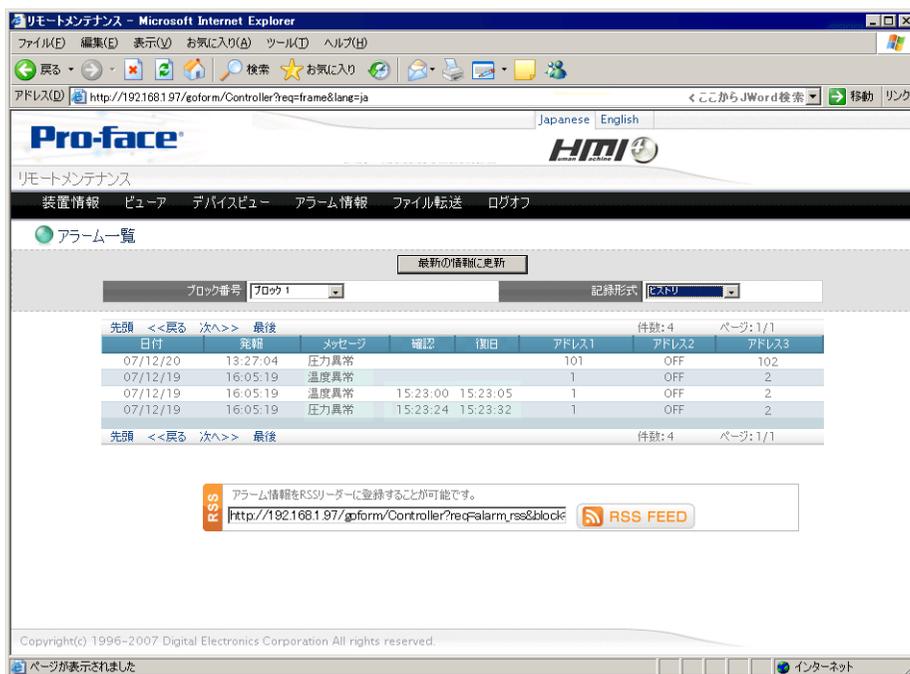
MEMO

- Web Server の設定、接続の手順は以下を参照してください。

☞ 「37.10 章 Web Server でアドレスを表示、アドレスの数値を変更したい」(37-40 ページ)

2 次のような画面が表示されるので [ブロック番号] で表示するアラームのブロック番号、また [記録形式] でアラームの表示モードを選択します。

(例 : [ブロック番号] ブロック 1、[記録形式] ヒストリ)



3 アラーム情報が表示され、[RSS] に RSS の URL が表示されるのでこの URL を RSS リーダーのアドレスに設定します。

MEMO

- RSS リーダーでの表示 URL アドレス設定については、ご使用の RSS リーダーで設定手順を確認してください。
- 弊社で動作確認を行った RSS リーダーソフトについては、(株) デジタルのサポート専用サイト「おたすけ Pro！」(<http://www.proface.co.jp/otasuke/>) で確認してください。

4 以下のように RSS リーダーにアラーム情報が表示されます。更新情報を選択するとアラーム情報の一覧が確認できます。アラームが発報、復旧するごとに表示される項目に反映され更新情報を確認することができます。

(下記のイラストはサンプルです。RSS リーダーにより表示方法は異なります。)



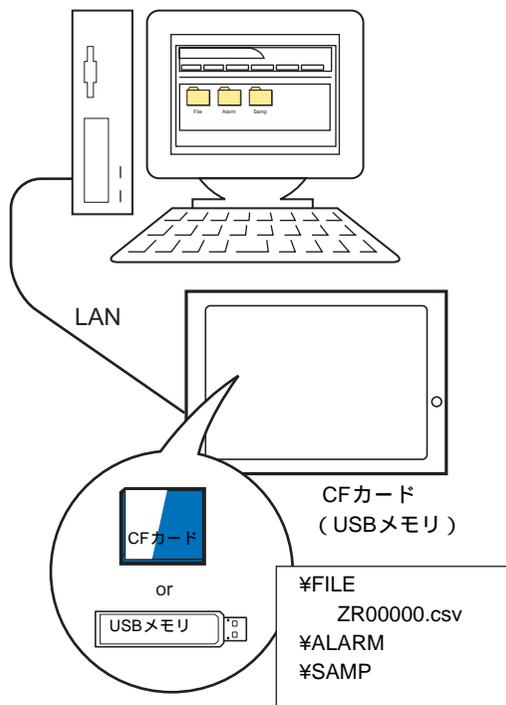
MEMO

- あらかじめ [遠隔監視] - [タイムゾーン設定] で、遠隔監視を行うパソコンの設置場所の標準時とグリニッジ標準時との時差を設定しておいてください。設定をしないと、RSS リーダー上の時間データが正確に表示されません。
- RSS リーダーに表示される時間は、以下の計算式で算出できます。
「パソコンの時差 - AGP の時差」
- RSS リーダーの更新周期は、デフォルト設定では、1分に1回更新されます。更新周期の変更方法については、使用するRSSリーダーのマニュアル等を参照してください。

37.13 Web Server で CF カード (USB ストレージ) にファイルを転送したい

37.13.1 詳細

転送ツールを使用せずに、CF カードや USB ストレージなどの外部メモリを使用して GP とパソコン間でファイルを転送できます。また、GP から他の GP へのファイルのコピーにも利用できます。



37.13.2 設定手順

Web Server で GP に接続されている CF カードや USB にファイルを転送するためには GP-Pro EX でファイル転送先の公開フォルダを設定する必要があります。

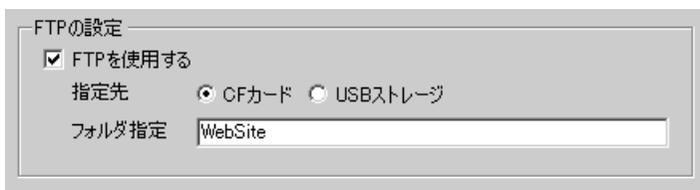
MEMO

- Web Server で FTP サーバ機能を使用するためにはインターネットオプションを設定する必要があります。設定手順は以下を参照してください。

☞ 「37.10.3 操作手順 Internet Explorer の起動と設定」(37-47 ページ)

FTP サーバ機能

- 1 システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] を開き、[FTP の設定] で、[FTP を使用する] にチェックを入れます。また [指定先] でファイル転送先を設定し、[フォルダ指定] で転送先のフォルダのパスを設定します。(例: [指定先] : CF カード、[フォルダ指定] : WebSite)



MEMO

- ファイル転送先のフォルダ指定は Web Server のコンテンツ転送先と同じフォルダも指定できます。
-

- 2 上記の設定を行ったプロジェクトファイルを保存し、GP に転送します。

☞ 「33.2 USB 転送ケーブルで転送したい」(33-5 ページ)

☞ 「33.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(33-12 ページ)

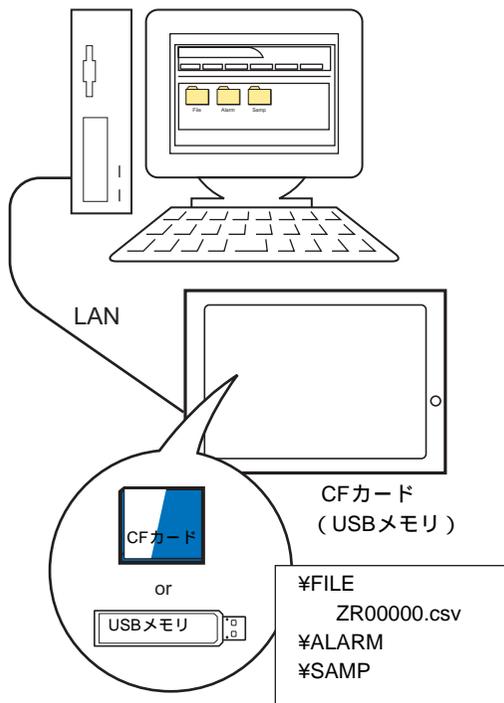
セキュリティ機能

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「22.10.1 共通設定 (セキュリティ設定) の設定ガイド」(22-37 ページ)

メンテナンス担当者用セキュリティレベル 15 とパスワード (5555) を設定します。また状況監視担当者用のセキュリティレベル 1 とパスワード (1111) を設定します。



MEMO

- セキュリティレベル 0 は、セキュリティがかかっていない状態です。

- 1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[レベル 1] にパスワード「1111」を入力し、[レベル 15] に「5555」を入力します。

セキュリティ機能を使用する [エクスポート](#)

ユーザIDを追加する 新規作成 削除

レベル	パスワード
1	1111
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	5555

MEMO

- パスワードは半角英数 8 文字以内で設定してください

- 3 続いて [機能別にセキュリティ設定する] にチェックを入れ [項目] の操作に対し手順 2 で設定したレベルを設定します。(例: [FTP フォルダ内のファイル閲覧] レベル「1」、[FTP フォルダ内のファイル登録・削除] レベル「15」)

機能別にセキュリティ設定する

項目	レベル	無効	
GP-Viewerデータ値書き込み	0	<input type="checkbox"/>	▲ ≡ ▼
Web Serverコンテンツ閲覧	0	<input type="checkbox"/>	
Web Serverデータ値読み込み	0	<input type="checkbox"/>	
Web Serverデータ値書き込み	0	<input type="checkbox"/>	
FTPフォルダ内のファイル閲覧	1	<input type="checkbox"/>	
FTPフォルダ内のファイル登録・削除	15	<input type="checkbox"/>	

[拡張設定](#)

MEMO

- 無効にチェックをつけると、セキュリティレベルに関係なくその機能は実行できなくなります。
- 無効にチェックをつけた後、有効に戻したい場合は、作画ソフトにて変更後、プロジェクトファイルを転送し直してください。オフラインメニューから有効に戻すことはできません。

37.13.3 操作手順

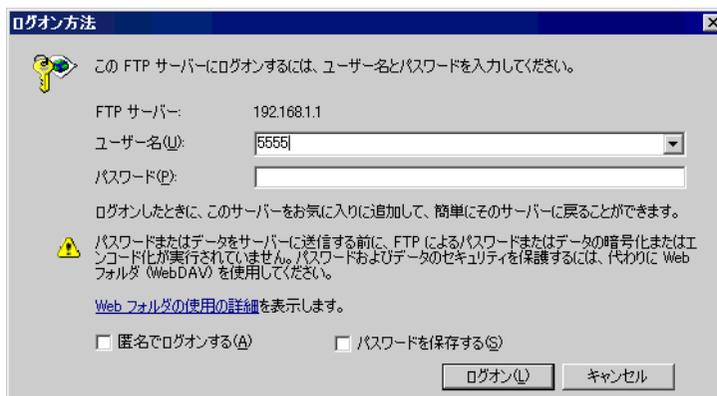
- 1 Web Server にログオンし、[ようこそ] 画面が表示されたら [ファイル転送] を選択します。

MEMO

- Web Server の設定、接続の手順は以下を参照してください。

☞ 「37.10 Web Server でアドレスを表示、アドレスの数値を変更したい」(37-40 ページ)

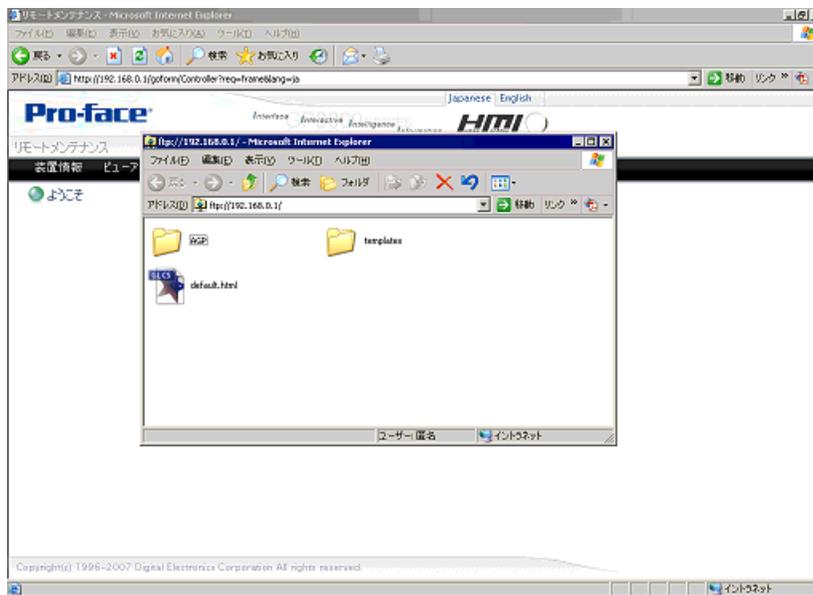
- 2 セキュリティ機能を設定していたら次のような [ログオン方法] ダイアログボックスが表示されるので操作したい内容に合わせて [ユーザー名] にパスワードを入力します。(例: 5555)



MEMO

- セキュリティ設定で [ユーザ ID] を設定している場合は、[ユーザー名 (U)] にユーザ ID を入力し、[パスワード (P)] にパスワードを入力します。
- Web Server を終了し、再起動する際に表示したい URL を直接入力してもセキュリティが設定されている場合はパスワードを入力する必要があります。
- FTP フォルダエラーが表示され、[ログオン方法] ダイアログボックスが表示されない場合は、[OK] を選択してエラーを閉じてから [ファイル (F)] メニューから [ログオン方法 (A)] を選択して [ログオン方法] ダイアログボックスを表示します。
- Internet Explorer は、FTP 接続時にユーザー名・パスワードが空欄でログオンされた場合、認証を必要としない anonymous ユーザに読み替えてログオンします。このため、[FTP フォルダ内のファイル閲覧] にレベル 0 が、[FTP フォルダ内のファイル登録・削除] にレベル 1 以上が設定されている場合、閲覧のみを目的としていてもユーザー名・パスワードを入力せずにログオンすることができません。閲覧のみの権限でログオンするには、任意のユーザー名・パスワードを空入力してください。
- ログオン方法ダイアログボックスの「パスワードを保存する」は使用しないでください。
- 別のユーザーでログオンし直したい場合は、一旦ウィンドウを閉じてから、再度 FTP サーバにアクセスしてください。

3 指定先フォルダの内容が表示されるのでファイルの書き込みや、削除などの操作を行います。



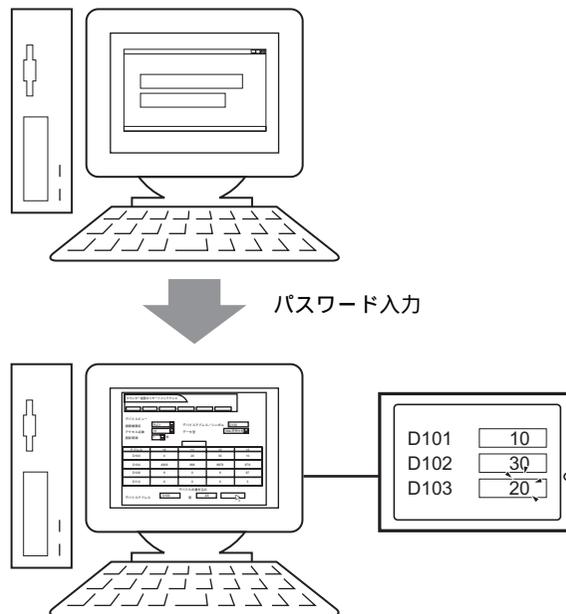
MEMO

- FTP 機能で操作できる内容は CF カード、USB のファイル一覧の取得、ファイルの取得、ファイル削除、ファイルの属性変更、ファイルの書き込みです。
- Internet Explorer 7 で FTP 転送を使用する場合は、[ページ] - [エクスプローラで FTP サイトを開く] で新しいウィンドウを開き、そのウィンドウ上でファイルの読み書きを実施してください。
新しいウィンドウを開かずに操作を行うとファイルの書き込みと削除ができません。途中、ログインウィンドウなどが表示されることがありますが、キャンセルしてください。

37.14 Web Server で表示 / 操作できる人を制限したい (セキュリティ)

37.14.1 詳細

Web Server で表示器に表示されているデータを表示、操作できる人を制限したい場合にセキュリティ設定を行います。ここでは、メンテナンス担当者用セキュリティレベル 10 とパスワード (5555)、また状況監視担当者用のセキュリティレベル 1 とパスワード (1111) を設定してセキュリティレベルを切り替えます。



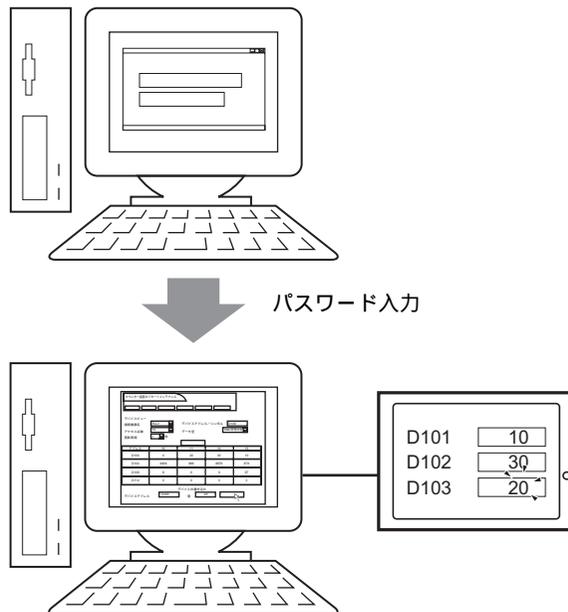
37.14.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「22.10.1 共通設定 (セキュリティ設定) の設定ガイド」 (22-37 ページ)

メンテナンス担当者用セキュリティレベル 15 とパスワード (5555) を設定します。また状況監視担当者用のセキュリティレベル 1 とパスワード (1111) を設定します。



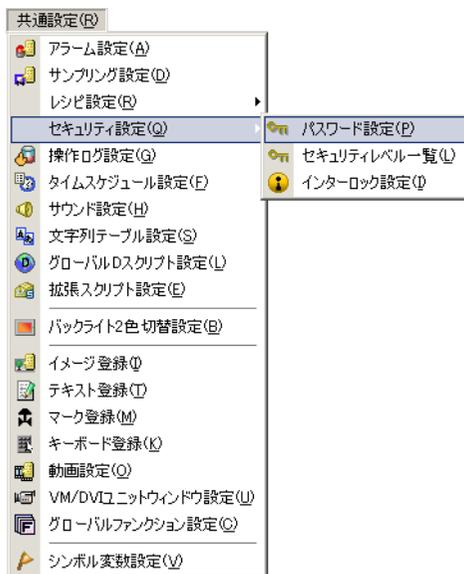
MEMO

- セキュリティレベル 0 は、セキュリティがかかっていない状態です。

レベルモード

1 ~ 15 のセキュリティレベルにパスワードを登録して表示器の画面にセキュリティレベルを設定します。

- 1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開きます。[セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[レベル 1] にパスワード「1111」を入力し、[レベル 15] に「5555」を入力します。



MEMO

- パスワードは半角英数 8 文字以内で設定してください

- 3 続いて [機能別にセキュリティ設定する] にチェックを入れ [項目] の操作に対し手順 2 で設定したレベルを設定します。(例: [Web Server データ値読み込み] レベル「1」、[Web Server データ値書き込み] レベル「15」)

機能別にセキュリティ設定する

項目	レベル	無効	
GP-Viewer データ値書き込み	0	<input type="checkbox"/>	▲
Web Server コンテンツ閲覧	0		
Web Server データ値読み込み	1		
Web Server データ値書き込み	15	<input type="checkbox"/>	☰
FTP フォルダ内のファイル閲覧	0		
FTP フォルダ内のファイル登録・削除	0	<input type="checkbox"/>	▼

[拡張設定](#)

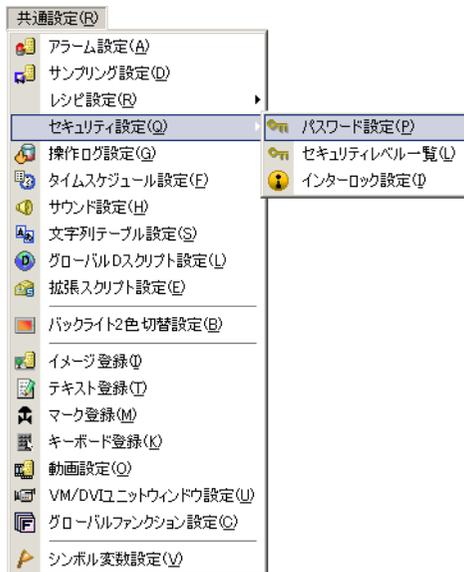
MEMO

- 無効にチェックをつけると、セキュリティレベルに関係なくその機能は実行できなくなります。
- 無効にチェックをつけた後、有効に戻したい場合は、作画ソフトにて変更後、プロジェクトファイルを転送し直してください。オフラインメニューから有効に戻すことはできません。

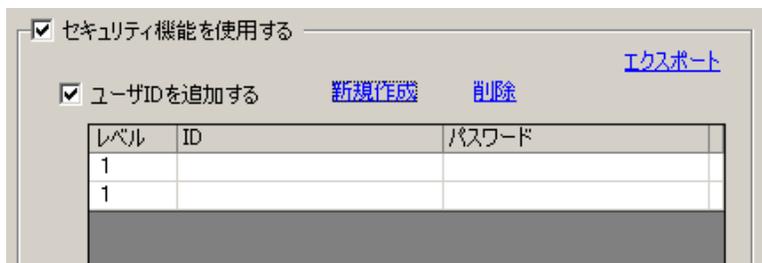
ユーザ ID モード

セキュリティレベルにユーザ ID とパスワードを登録して表示器の画面にセキュリティレベルを設定します。

- 1 [共通設定 (R)] メニューの [セキュリティ設定 (Q)] から [パスワード設定 (P)] を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



- 2 パスワード設定画面が開くので [セキュリティ機能を使用する] にチェックを入れ、[ユーザ ID を追加する] にチェックを入れます。[新規作成] をクリックしてパスワード登録エリアを追加します。クリックごとに登録エリアが 1 つずつ追加されます。



- 3 状況監視担当者用、メンテナンス担当者用のセキュリティレベルと、ユーザ ID、パスワードをそれぞれ [レベル]、[パスワード]、[ID] に設定します。(例: [レベル]: 「1」、[パスワード]: 1111、[ID]: Monitor、[レベル]: 「15」、[パスワード]: 「5555」、[ID]: Admin)

セキュリティ機能を使用する [エクスポート](#)

ユーザIDを追加する [新規作成](#) [削除](#)

レベル	ID	パスワード
1	Monitor	1111
15	Admin	5555

MEMO

- パスワードは半角英数 8 文字以内で設定してください

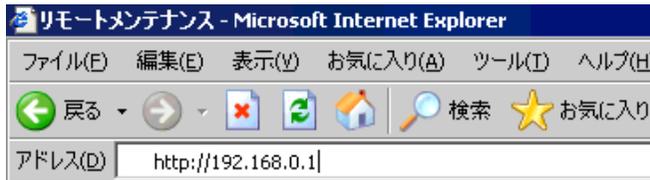
- 4 続いて [機能別にセキュリティ設定する] にチェックを入れ [項目] の操作に対し手順 2 で設定したレベルを設定します。(例: [Web Server データ値読み込み] レベル「1」、[Web Server データ値書き込み] レベル「15」)

機能別にセキュリティ設定する

項目	レベル
GP-Viewerデータ値読み込み	0
GP-Viewerデータ値読み/書き込み	0
Web Serverコンテンツ閲覧	0
Web Serverデータ値読み込み	1
Web Serverデータ値書き込み	15
FTPフォルダ内のファイル閲覧	0

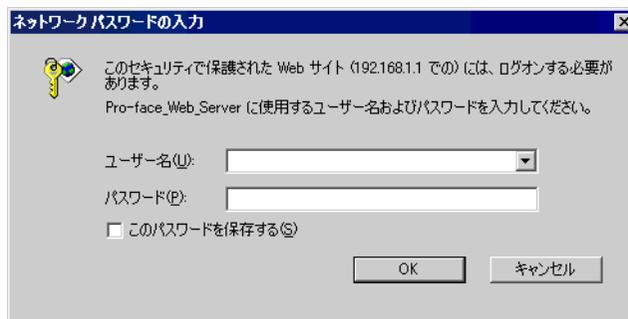
37.14.3 操作手順

- 1 Internet Explorer の [アドレス (D)] に接続する表示器の IP アドレスを設定します。
(例 : 192.168.0.1)

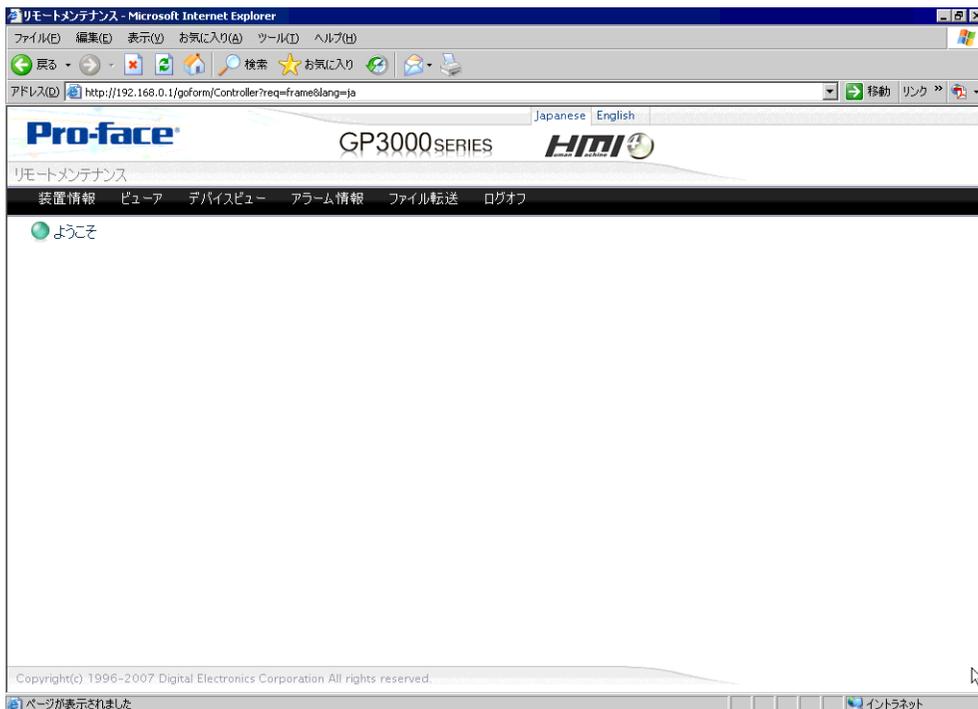


- 2 [デバイスビュー] などのメニューを選択すると、次のような [ネットワークパスワードの入力] ダイアログボックスが表示されるので設定しているパスワードを半角英数 8 文字以内で設定し、[OK] をクリックします。

(例 : 「5555」(データを表示、操作できるセキュリティレベル))



- 3 表示器の Web Server に接続され次のような [ようこそ] 画面が表示されます。



- 4 メニューから操作項目を選択し、表示器のデータを操作します。

37.15 設定ガイド

37.15.1 標準テンプレート HTML の設定ガイド

GP-Pro EX にインストールされている標準 HTML テンプレートの Web ページについてご説明します。標準テンプレートの Web ページはヘッダーフレーム、フッターフレーム、メインフレームの 3 つのフレームより構成されています。標準 HTML テンプレートは以下にインストールされています。

C:\Program Files\Pro-face\GP-Pro EX 2.1\HTMLContents

MEMO

- Web Server を使用するためには、システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] - [Web Server の設定] で [Web Server を使用する] を設定し、また標準 HTML テンプレートが表示器に転送されている必要があります。

ヘッダーフレームの設定ガイド

ログオフ後以外のすべてのページ先頭につく共通フレームです。このフレーム内のボタンから各ページにジャンプします。



設定項目	設定内容
タイトル	Web ページのタイトルを表示します。
装置情報	GP-Pro EX のプロジェクトファイルの設定情報を表示します。
ビューア	パソコンに GP-Viewer EX がインストールされている場合、GP-Viewer EX を起動します。
デバイスビュー	GP に接続されている接続機器のアドレスをモニタします。
アラーム情報	GP に蓄積されているアラームの情報を表示します。
ファイル転送	Internet Explorer を FTP クライアントとして使用します。GP に接続している CF カードや USB ストレージのデータにアクセスできます。
ログオフ	GP との接続を切断し、ウィンドウを閉じます。
Japanese/English	日本語版の標準 HTML テンプレートと英語版の標準 HTML テンプレートの起動を切り替えます。

フッターフレームの設定ガイド

すべてのページ最終行につく共通フレームです。

Copyright(c) 1996-2007 Digital Electronics Corporation All rights reserved.

メインフレームの設定ガイド

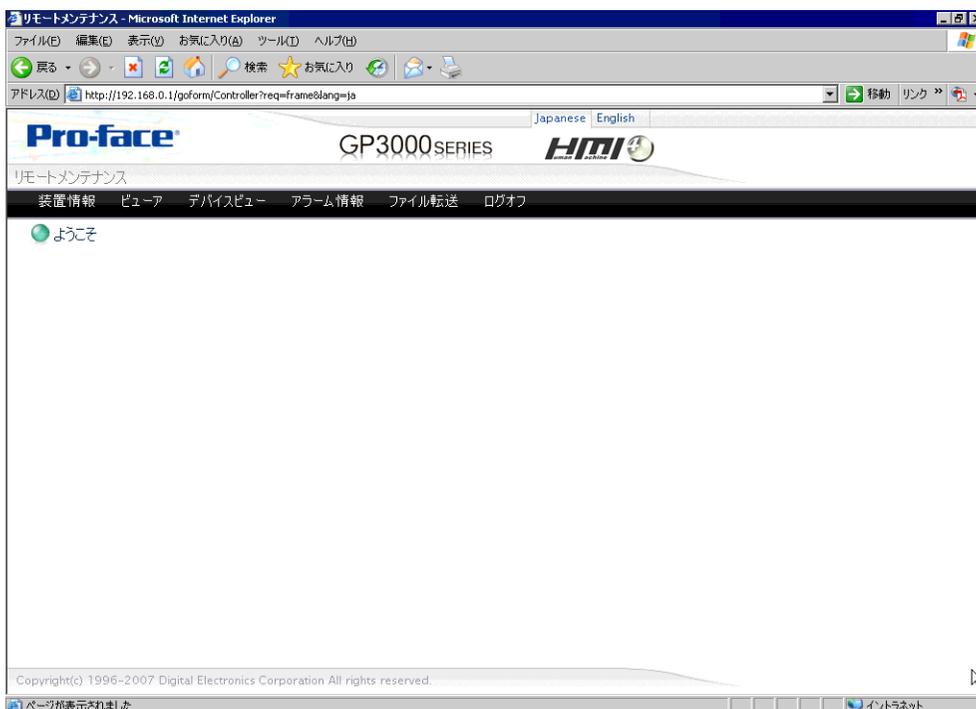
[ヘッダーフレーム] で選択した機能より表示内容が異なります。

ログオン



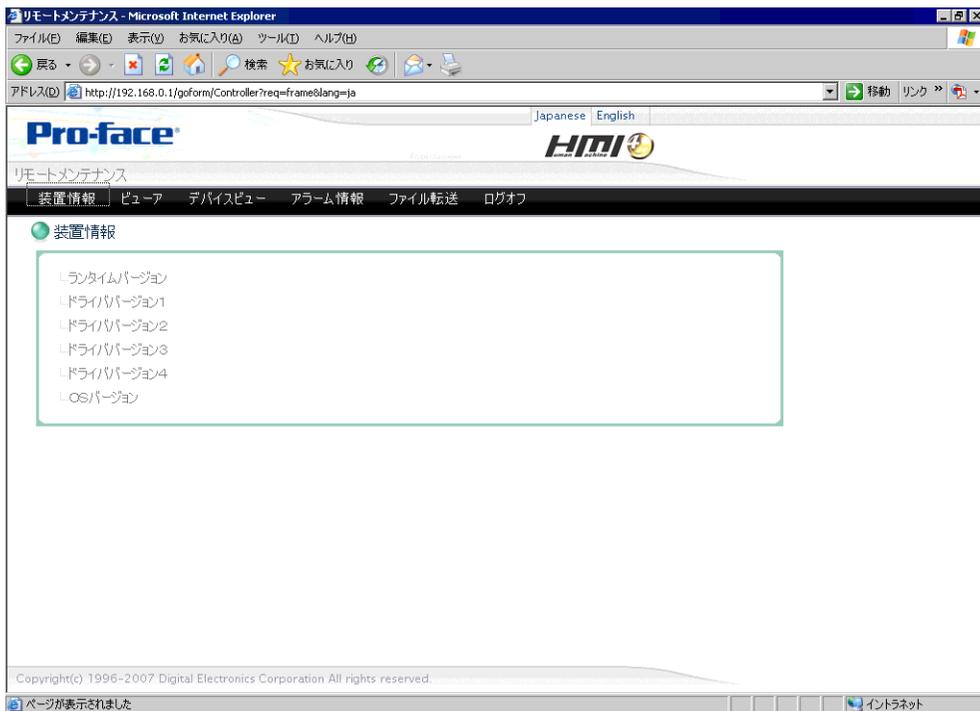
設定項目	設定内容
ユーザー名	GP-Pro EX の [セキュリティ設定] で設定されているユーザー名を半角英数 8 文字以内で入力します。[セキュリティ設定] でユーザー名が設定されていない場合は空白が表示されます。
パスワード	GP-Pro EX の [セキュリティ設定] で設定されているパスワードを半角英数 8 文字以内で入力します。
パスワードを保存する	チェックを入れると、一度入力した [ユーザー名] に対して設定されているパスワードを記憶し、次回からパスワードを入力しなくても [OK] ボタンをクリックするだけで接続できます。

[ようこそ] ページ



[装置情報] ページ

プロジェクトファイルやネットワークプロジェクトファイルの設定情報を表示します。装置情報を参照できますが設定を変更することはできません。



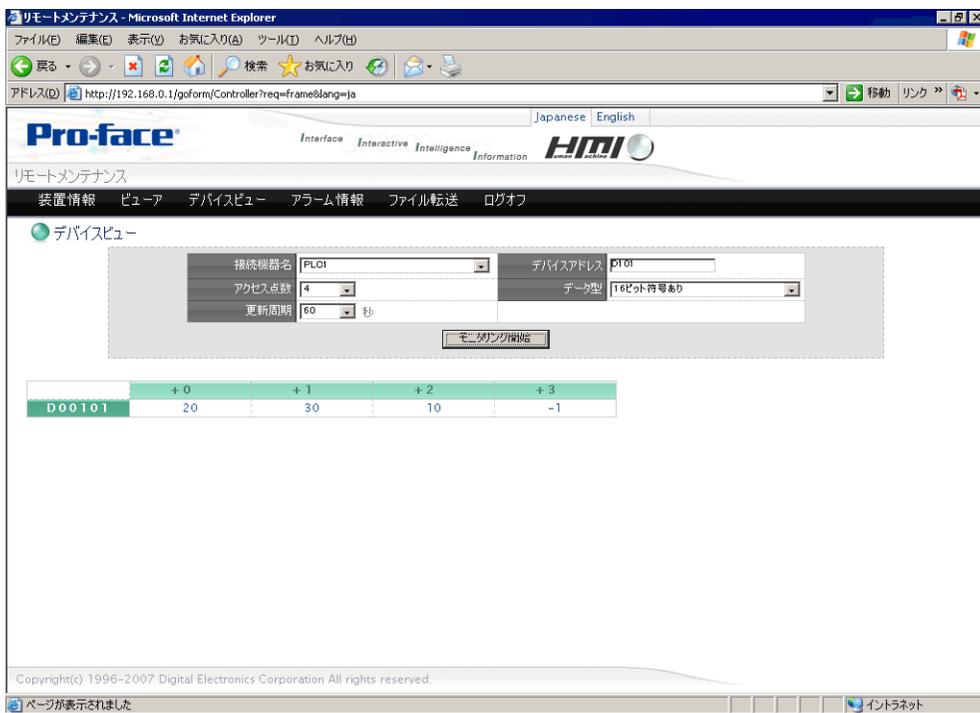
設定項目	設定内容
ランタイムバージョン	GP のランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン 1 ~ 4	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の 4 ドライバが接続されていれば 4 つそれぞれのドライババージョンを表示します。
OS バージョン	GP の OS のバージョンが表示されます。

[GP-Viewer EX] ページ



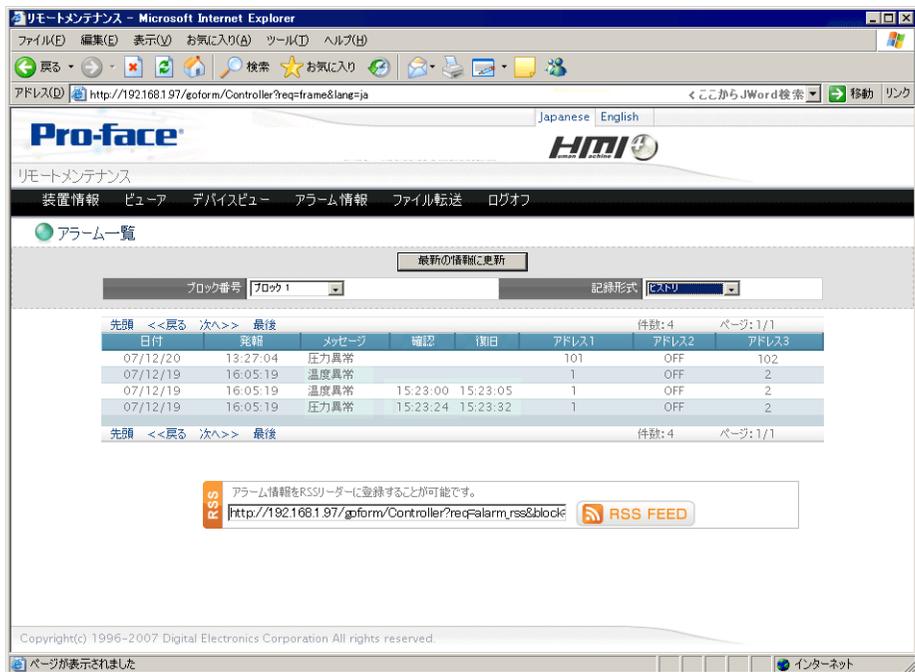
設定項目	設定内容
GP-Viewer EX 起動	GP-Viewer EX がインストールされているパソコンであれば、ショートカットキーとして GP-Viewer EX を起動します。
Download	GP-Viewer EX をダウンロードします。

[デバイスビュー]ページ



設定項目	設定内容
接続機器名	GPに接続している接続機器名を選択します。
デバイスアドレス	モニタするデバイスアドレスの開始アドレスを設定します。シンボル指定はできません。
アクセス点数	1画面で表示、アクセスするアドレスの点数を [1]、[2]、[4]、[8]、[16]、[32]、[50]、[100]、[200] から選択します。
データ型	アクセスするアドレスのビット長とデータ形式を [ビット]、[16ビット符号あり]、[16ビット符号なし]、[16ビットHEX]、[32ビット符号あり]、[32ビット符号なし]、[32ビットHEX]、[単精度浮動小数点]、[倍精度浮動小数点]、[文字列] から選択します。
更新周期	モニタリングする周期を [1]、[2]、[3]、[4]、[5]、[10]、[20]、[60]、[120]、[180]、[300] 秒から選択します。
モニタリング開始	選択すると [更新周期] で指定された周期でモニタを開始します。別のページに移動したり、ブラウザを終了すると、モニタが停止します。
デバイス表示フレーム	[デバイスアドレス] で設定したアドレスから [アクセス点数] で設定したアドレス数分が表示されます。

[アラーム情報] ページ



設定項目	設定内容
最新の情報に更新	アラーム情報を更新し、最新情報を表示します。
ブロック番号	GP で設定されているアラームのブロック番号を 1 ~ 8 で指定します。
記録形式	アラームの [記録形式] を [履歴]、[ログ]、[アクティブ] から選択します。
先頭	表示しているアラームの先頭行を表示します。
戻る	前のページに移行します。
次へ	次のページに移行します。
最後	表示しているアラームの最後の行を表示します。
アラーム表示フレーム	アラーム情報を表示します。
日付	アラームが発報した日付を表示します。
発報	アラームが発報した時刻を表示します。
メッセージ	発報したアラームのメッセージを表示します。
確認	発報したアラームが確認された時刻を表示します。
復旧	アラームが復旧された時刻を表示します。
アドレス 1 ~ 8	[アラーム設定] で指定したアドレスのアラーム発報時の値を表示します。 詳細は以下を参照してください。 ☞「19.10.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド アラーム設定 (ブロック 1) の設定ガイド」(19-82 ページ)

次のページに続きます。

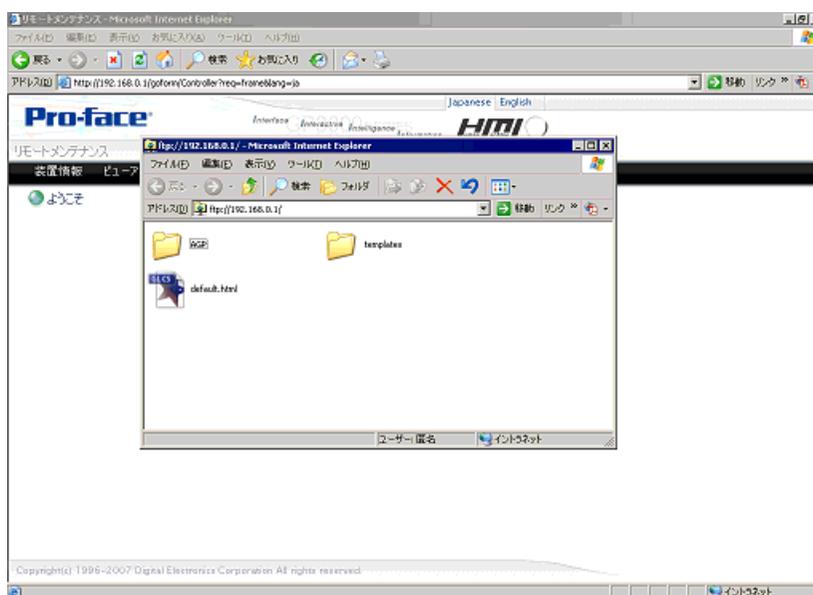
設定項目	設定内容
RSS	<p>アラーム情報を RSS データとして表示します。[ブロック番号] または [記録形式] を変更するたびに RSS の URL がここに表示されます。この URL を RSS リーダーのアドレス部に入力すると RSS データとして表示されます。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> 弊社で動作確認を行った RSS リーダーソフトについては、(株) デジタルのサポート専用サイト「おたすけ Pro!」(http://www.proface.co.jp/otasuke/) で確認してください。
RSS FEED	RSS リーダーに RSS の URL を登録することが可能です。ただし RSS リーダーによっては URL が反映されない場合があります。

[ファイル転送] ページ

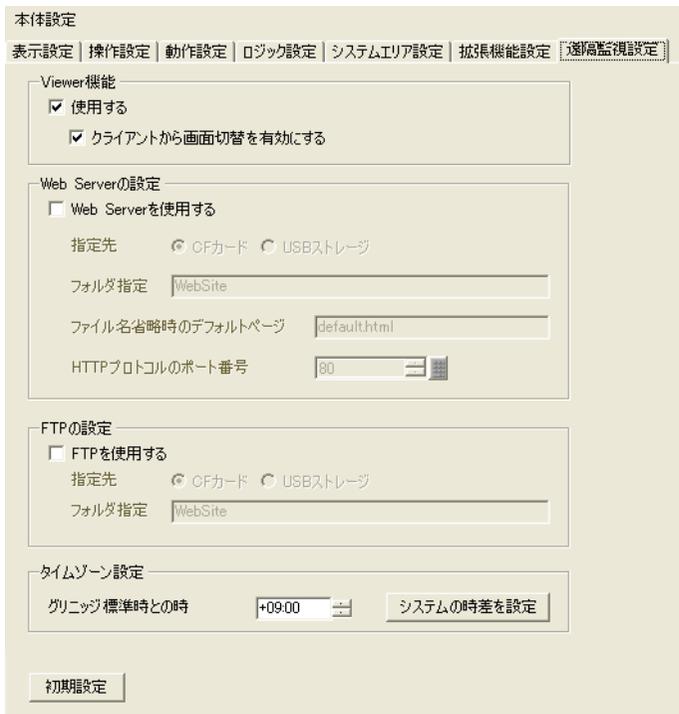
Internet Explorer を FTP クライアントとして使用します。Web ページの [ファイル転送] を起動します。システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] - [FTP の設定] に設定した公開フォルダの内容に FTP サーバからアクセスできるようになります。FTP サーバで GP のファイルにアクセスできます。

MEMO

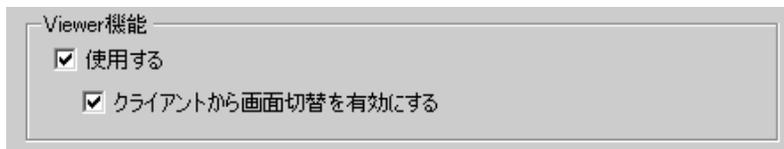
- FTP 機能で操作できる内容は CF カード、USB のファイル一覧の取得、ファイルの取得、ファイル削除、ファイルの属性変更、ファイルの書き込みです。
- Internet Explorer は、FTP 接続時にユーザー名・パスワードが空欄でログオンされた場合、認証を必要としない anonymous ユーザとしてログオンします。このため、[FTP フォルダ内のファイル閲覧] にレベル 0 が、[FTP フォルダ内のファイル登録・削除] にレベル 1 以上が設定されている場合、閲覧のみを目的としていてもユーザー名・パスワードを入力せずにログオンすることができません。閲覧のみの権限でログオンするには、任意のユーザー名・パスワードを空入力してください。



37.15.2 システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] の設定ガイド



Viewer 機能



MEMO

- [本体設定] - [拡張機能設定] - [Ether マルチリンク設定] の [動作モード] で [スレーブ] を選択している場合は設定できません。

設定項目	設定内容
使用する	GP-Viewer EX 機能を使用するかどうかを設定します。
クライアントから画面切替を有効にする	GP-Viewer EX から表示器の画面切り替えを許可するかどうかを設定します。 MEMO • セキュリティ設定で読み書き操作の権限があるユーザーでもこの項目が選択されていない場合は、GP-Viewer EX 側からの画面切り替えはできません。

Web Server の設定

Web Server の設定

Web Server を使用する

指定先 CFカード USBストレージ

フォルダ指定

ファイル名省略時のデフォルトページ

HTTP プロトコルのポート番号

設定項目	設定内容
Web Server を使用する	Web Server 機能を使用するかどうかを設定します。
指定先	標準 HTML テンプレートを [CF カード]、[USB ストレージ] どちらのフォルダに転送するかを選択します。
フォルダ指定	<p>Web サーバとして公開する CF カード、または USB ストレージのフォルダのパスを半角英数 90 文字以内で指定します。</p> <p>「WebSite」と設定すると、「http://IP アドレス /default.html」にアクセスされた場合、CF カード、または USB ストレージの「WebSite¥default.html」が表示されます。</p> <p>例)CF カードの Web-Site フォルダを参照する場合</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>IPアドレス</p> <p>***.***.***.***</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>CFカード</p>  </div> </div> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> • ルートフォルダとして指定できるのは 1 フォルダだけなので、公開できるのは USB ストレージか CF カードのどちらかの 1 フォルダとなります。 • パスの最後に入力された「/」または「\」は自動的に削除して（無い状態）保存されます。ただし、パスの指定で「/」または「\」一文字のみが表示されている場合はそのまま保存されます。
ファイル名省略時のデフォルトページ	<p>ファイル名を省略して、アクセスされた場合に表示するファイル名を半角英数 90 文字以内で指定します。</p> <p>例えば、default.html と設定した場合、実際には http://IP アドレス /default.html にアクセスしていますが、http://IP アドレスだけが Internet Explorer の [アドレス (D)] に表示されます。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> • [フォルダ指定] と [ファイル名省略時のデフォルトページ] で設定した文字数が半角英数 90 文字を超えないように設定してください。
HTTP プロトコルのポート番号	<p>Web-Server 機能が使用するポート番号を 1 ~ 65535 で設定してください。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通常は 80 番をご使用になることをお奨めします。 • ただし、ファイアウォール等を使用しているため、80 番を使用できない場合は、ポート番号を変更する必要があります。 • 使用可能なポート番号については、ファイアウォールの設定より異なるため、ファイアウォールの設定を参照してください。

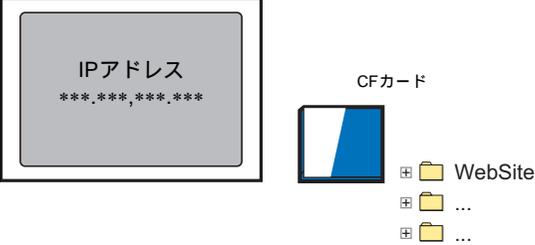
FTP の設定

FTPの設定

FTPを使用する

指定先 CFカード USBストレージ

フォルダ指定

設定項目	設定内容
FTP を使用する	FTP 機能を使用するかどうかを設定します。
指定先	FTP サーバとして公開するフォルダを [CF カード]、[USB ストレージ] どちらのフォルダに指定するかを選択します。
フォルダ指定	<p>FTP サーバとして公開する CF カード、または USB ストレージのフォルダのパスを半角英数 90 文字以内で指定します。</p> <p>「FTPSite」と設定すると、「ftp://IP アドレス /」にアクセスされた場合、CF カード、または USB ストレージの「WebSite」フォルダが表示されます。</p> <p>例)CF カードの WebSite フォルダを参照する場合</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> • ルートフォルダとして指定できるのは 1 フォルダだけなので、公開できるのは USB ストレージか CF カードのどちらかの 1 フォルダとなります。 • パスの最後に入力された「/」または「\」は自動的に削除して（無い状態）保存されます。ただし、パスの指定で「/」または「\」一文字のみが表示されている場合はそのまま保存されます。 • USB ストレージか CF カード全体を公開したい場合は、空欄を設定してください。

タイムゾーン設定

タイムゾーン設定

グリニッジ標準時との時

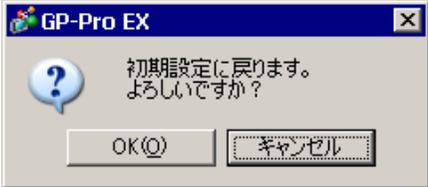
設定項目	設定内容
グリニッジ標準時との時差	パソコンを設置する場所の標準時間を、グリニッジ標準時との時差で設定します。アップダウンボタンまたは手入力での設定が可能です。
システムの時差を設定	使用しているパソコンに設定されたタイムゾーン情報を取得し、それを元に算出した時差を [グリニッジ標準時との時差] に設定します。

MEMO

- タイムゾーン設定は、Web Server 機能にのみ有効です。

初期設定

初期設定

設定項目	設定内容
初期設定	<p>[Viewer 機能]、[Web Server の設定]、[FTP の設定] の設定をすべて初期値に戻します。</p> <p>選択すると、以下のようなメッセージボックスが表示され、初期設定続行確認を行います。[OK] を選択すると初期値に戻します。</p> 

MEMO

- [本体設定] - [拡張機能設定] の [動作モード] を [スレーブ] に設定している場合は、初期ボタンを押しても初期値には戻りません。

37.16 制限事項

37.16.1 GP-Viewer EX の制限事項

- GP-Viewer EX をインストールした先が半角英数 80 文字以上になる場合は起動した際に「GP-Viewer EX 先のパスが 80 文字を超えているため、起動できません」というエラーが表示され、正常に動作しません。GP-Viewer EX を半角英数 80 文字以内のパスをインストール先として再インストールしてください。
- 1 台のパソコンに異なるバージョンの GP-Viewer EX をインストールすることはできません。
- 間違ったキーコードが入力された場合はキーコードが設定できません。正しいキーコードを入力してください。
- キーコードを入力していない場合は、GP-Viewer EX 体験版が起動します。
- キーコードが設定されていない表示器に GP-Viewer EX から接続をかけると、GP-Viewer EX の体験版が起動します。
- 1 台のパソコンで表示できる GP-Viewer EX のウィンドウは接続している表示器の台数に関わらず、最大 4 ウィンドウまでです。ただし、表示器に同時にアクセスできる GP-Viewer EX は 3 つまでです。
- GP-Viewer EX 起動時や更新ボタンをクリックした場合は、アラーム情報を一括で取得し更新されるので表示器と GP-Viewer EX は同じアラーム情報を表示しますが、その後は表示器と GP-Viewer EX は別々にアラーム情報を監視するので通信速度により表示内容が異なる場合があります。
- 表示器の外部ストレージと GP-Viewer EX の仮想外部ストレージは直接同期されていないため、GP-Viewer EX 側でアラーム情報を保存することはできません。
- 接続機器の通信エラーなど自動的に復旧するエラーについては、表示器側でエラー表示が消えても GP-Viewer EX 側ではエラー表示が消えません。エラー表示を消すためには、画面の切り替えを行うか、またはシステムメニューの [×] ボタンを押してエラー表示を消してください。
- 複数のエラーが同時に発生しても、エラー取得のタイミングによっては、すべてのエラーが表示されない場合があります。

37.16.2 Web Server の制限事項

- システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] - [Web Server の設定] で [Web Server を使用する] を設定していないと Web Server が使用できません。プロジェクトファイル転送前に設定されていることをご確認ください。
- 標準 HTML テンプレートや FTP サーバとして公開するフォルダの転送先ファイルパスは半角英数 90 文字以内で設定してください。

Web Server 機能の標準 HTML テンプレートを使用する場合は、必ず標準 HTML テンプレートを表示器に転送してください。標準 HTML テンプレートは以下の場所にインストールされています。

C:\Program Files\Pro-face\GP-Pro EX 2.1\HTMLContents

転送方法は以下を参照してください。

☞ 「33.10 転送ツールの設定ガイド」(33-57 ページ)

- GP をご購入いただいた直後に電源を ON した際に表示される画面では標準 HTML テンプレートは転送できません。[Web Server を使用する] にチェックを入れたプロジェクトファイルを転送してから標準 HTML のコンテンツを転送ツールより [サイト送信] で転送してください。
- GP が記憶しているシステムプログラム (Runtime) が GP-Pro EX Ver2.10 より古いバージョンの場合は標準 HTML テンプレートを表示器に転送できません。
- Web Server に同時にアクセスできるパソコンは GP 機種により異なります。GP-3400、3500、3600、3700 シリーズをご利用の場合は同時に 3 つのパソコンまでアクセスできます。GP-3200、3300 シリーズについては 1 つのパソコンのみアクセスできます。
- [装置情報] メインフレームに表示される内容はカスタマイズすることができません。
- [アラーム情報] で 1 ページあたりに表示できるアラーム最大表示件数は 15 件です。
- RSS で表示できる最大アラーム件数は 15 件までです。
- Internet Explorer で設定している文字サイズなど Internet Explorer の表示設定が変更されている場合は、標準 HTML が正しく表示されない場合があります。
- 表示器タイプで GP-3200、3300 シリーズを選択している場合は Web Server 機能を使用すると、Web Server 用にユーザー画面エリアに 1M バイトが割り当てられます。送信データサイズに 1M バイトが追加されます。
- RSS リーダーでアラームの [記録形式] を [アクティブ]、[ヒストリ] を使用している場合、[復旧]、[確認] のタイミングが RSS リーダーに更新通知されません。[復旧]、[確認] の更新通知を受けたい場合は、[記録形式] の [ログ] を使用してください。ただしアラームデータの構造上、RSS の各項目の見た目で [発報]、[復旧]、[確認] を区別することはできません。
- 多数のブラウザにて Web Server にアクセスすると、Web Server に負荷がかかり、Web Server からの応答が返らなくなったり、Web Server に接続できなくなる場合があります。
- FTP サーバにアクセスした場合、Internet Explorer のフォルダ表示部分が更新されない場合があります。この場合は、[表示 (V)] メニューから [最新の情報に更新 (R)] を選択またはファンクションキーの F5 を押して表示更新してください。
- FTP サーバに対して複数の階層構造を持つフォルダをコピーしようとする、ファイルの個数分ログオン画面が表示されます。複数表示されたログオン画面は [キャンセル] で閉じてください。

- FTP サーバ経由で読み取り専用ファイルに同じファイル名を上書きしようとする、[ログオン] ダイアログボックスが表示されます。[キャンセル] を押してダイアログボックスを閉じてください。
- FTP サーバに接続していると、画面転送（またはサイト送信）できません。FTP サーバからログアウトしてから画面転送（またはサイト送信）してください。
- Web Server のデバイスビューでは、デバイス直接指定のみ設定可能です。シンボル、コントロール変数などは使用できません。

